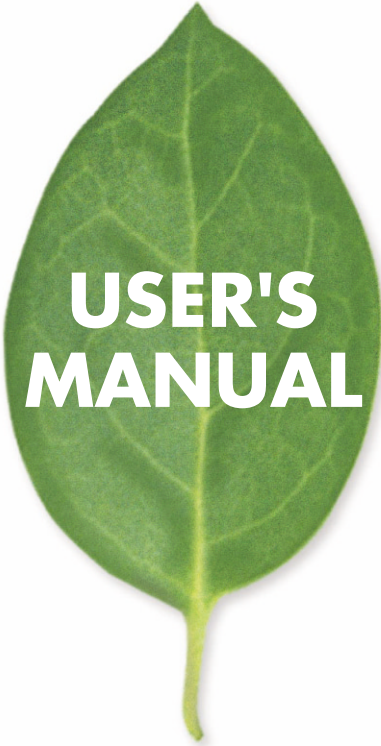




USER'S MANUAL

PLANEX SMART SERVER
PLASMA3000

PLANEX COMMUNICATIONS INC.

本製品を安全にお使いいただくために

⚠ 警告

本製品をご利用の際は、以下の注意点を必ずお守りください。これらの事項が守られない場合、感電、火災、故障などにより使用者の重傷または死亡につながるおそれがあります。

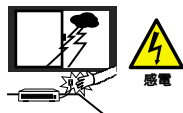
分解・改造・修理はダメ！

各部のネジを外したり、カバーを開けたりしないでください。また製品内部の部品を改造・交換しないでください。感電や火災につながるおそれがあります。



雷のときはさわらないで！

雷が発生している間は、製品各部およびケーブルにさわらないでください。感電するおそれがあります。



正しい電圧で使用して！

指定の電圧以外で使用するすると誤動作や火災につながるおそれがあります。



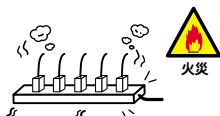
通気口をふさがないで！

内部に熱がこもり、誤動作や火災につながるおそれがあります。



タコ足配線・無理な配線はダメ！

コンセントや電源タップの定格を超えて電気製品を接続すると、発熱し火災につながる危険があります。



電源コードをつけて移動しないで！

本製品を設置・移動する際は、必ず電源コードを前もって抜いておいてください。電源コードを入れたまま移動し、コードが傷つくと誤動作や火災につながるおそれがあります。



液体・異物は入れないで！

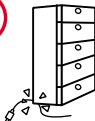
製品内部に液体や異物が入ると、ショートして火災が発生したり、誤動作したりする可能性があります。
万一異物や液体が入ってしまった場合は、電源コードをコンセントから外して弊社サポートセンターまでご連絡ください。



電源コードは傷つけないで！

火災・感電につながるおそれがありますので、電源やACアダプタのコードは絶対に加工したり傷つけたりしないでください。また以下の点を守ってコードを傷めないようにしてください。

- コードの上に物を載せない
 - 熱源の側にコードを置かない
 - コードをかじる癖のあるペットは隔離する
- (かじった部分からショートし発火する危険があります)



設置・保管場所をもう一度確認して！

以下の場所での本製品のご利用や保管は避けてください。これらの場所で設置・保管を行うと誤動作や感電、火災につながる危険があります。

- ・本製品が落下する可能性のある不安定な場所
- ・直射日光のあたる場所
- ・高温または多湿の場所（暖房器具の側も含む）
- ・急激に温度変化する可能性のある場所（結露のおそれがある所）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所
- ・静電気を帯びやすい場所（絨毯の上も含む）
- ・腐食性のガスが発生する場所



おねがい

本製品のお手入れ

- ・本製品のお手入れは乾いた柔らかい布で行ってください。
- ・汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤に布を浸し、かたく絞って本製品を拭いてください。また最後に乾いた布で軽く拭いてください。
- ・台所用中性洗剤以外は使わないでください。シンナーやベンジン、ワックス、アルコールが入ったものは使用できません。

目次

第1章 はじめに

1. 概要	5
2. 特長	6
3. 梱包内容の確認	7
4. 各部の名称	8
5. 対応機器	10

第2章 ハードウェアの接続

1. 本製品の設置	11
2. 電源ケーブルの接続	12
3. 本製品にシリアルケーブルを接続する場合	13
4. ネットワークの接続	13

第3章 WEBブラウザからの設定

1. WEBブラウザからのアクセス	14
2. 初期設定	17
3. 詳細設定・設定変更	49
4. ユーティリティ	102

第4章 Windows クライアントのセットアップ

1. 概要	120
2. TCP/IPの設定	121
3. ネットワークログイン	125
4. 本製品上のディスク領域を使用する	127
5. 本製品からインターネットに接続する	131

第5章 Macintoshクライアントのセットアップ

1. 概要	133
2. TCP/IPの設定	134
3. 本製品内蔵ディスクにアクセスする	135
4. 本製品からインターネットに接続する	136

付録A	トラブルシューティング	
	1. Windows編	137
	2. Macintosh編	139
	3. インターネット接続関連	140
付録B	シリアルポートとの接続	142
付録C	製品仕様	144

《マニュアル内の表記について》

本マニュアル内では製品の名称を本製品と表記します。区別が必要な場合は製品型番で表記します。

User's Manual Ver.1.0

No.PCM-02-07-TN-PLASMA3000

1.はじめに

1.概要

本製品は、ADSLに代表される常時接続ブロードバンドサービスに対応したサーバです。また、ブロードバンドルータとしての機能も兼ね備えています。

PPPoE接続にも対応しており、NTT東西のフレッツADSLにも対応しています。NAPT(Network Address Port Translation:ネットワークアドレスポート変換)機能で、1つのIPアドレスを複数のコンピュータで共有し、同時にインターネットにアクセスすることが可能です。

本製品はWEBブラウザ設定ツールで、簡単にセットアップすることができます。

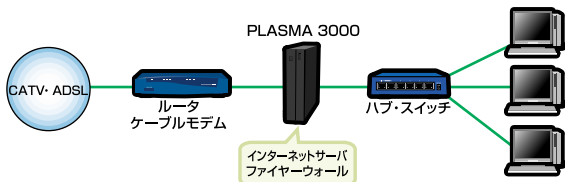


図1-1 Plasma3000接続図

2.特長

- NAPT機能で1つのIPアドレスを複数のコンピュータで共有できます
- フレッツ・ADSL等のPPPoE接続に対応
- 100BASE-TX/10BASE-T自動認識に対応した2つのRJ-45 STPポートを装備
- WAN側ポートはDHCPクライアントに対応
- LAN側ポートはDHCPサーバに対応(最大253クライアント)
- ファイアウォール機能を装備、IPアドレス、ポート番号によるアクセス制限ができます
- WEBサーバ機能を装備、独自サーバでHPの開設ができます
- メールサーバ機能を装備、独自ドメインでメールを運用できます
- メーリングリスト機能を装備、メーリングリストを開設できます
- ファイルサーバ機能を装備、windowsネットワーク・AppleTalkネットワークのファイルサーバとして資源の共有ができます
- DNSサーバ機能を装備、IPアドレスの名前解決ができます
- バックアップ機能を装備、設定の保存と復元ができます
- すべての設定変更を一元で管理できるWEBインターフェイスを装備

3. 梱包内容の確認

パッケージに以下の付属品が含まれていることを確かめます。

- Plasam本体
- 縦置きスタンド
- 電源ケーブル
- CD-ROMマニュアル
- LANケーブル

不足品がある場合は、販売店または弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。

4.各部の名称

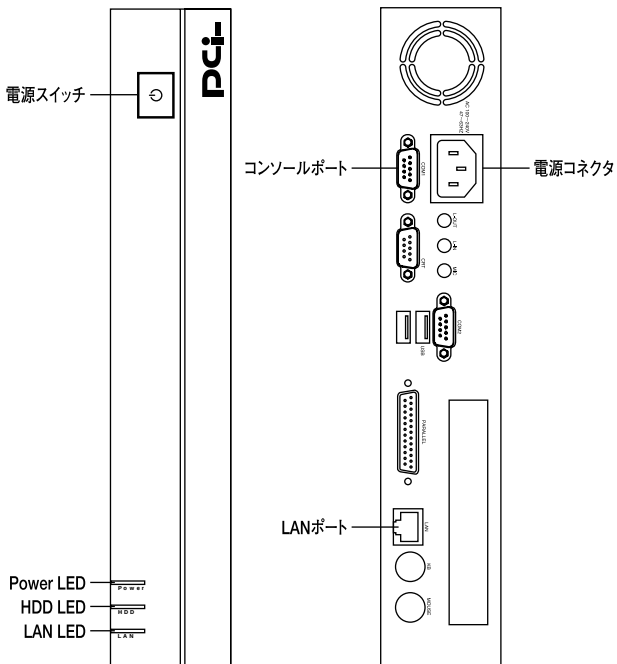


図1-2 本体

前面パネル

「Power LED」

本製品が電源ON時に点灯します。

「HDD LED」

このインディケータが点灯しているとき本体のハードディスクにアクセスしていることを意味します。

「LAN LED」

このインディケータが点滅している場合はアダプタがデータの送受信を行っていることを意味します。

「電源スイッチ」

本製品の電源スイッチです。

背面パネル

「電源コネクタ」

電源ケーブルを接続します。

「LAN Port」

本製品をLANと接続するためのRJ-45 STPポートです。

「WAN Port」

本製品をWAN回線と接続するためのRJ-45 STPポートです。

「Console Port」

コンソールにシリアル経由でアクセスするときにシリアルケーブルを接続します。

パスワードの初期化機能しかありません。

5.対応機器

■ コンピュータ機器

本製品は、以下のいずれかのコンピュータに対応しています。

Windows 95/98/NT/2000を搭載し、Ethernet(RJ-45)ポートを
装備したコンピュータ

TCP/IPが利用できるOS(Mac OS、各種UNIXなど)を搭載し、
Ethernet(RJ-45)ポートを装備したコンピュータ

■ ネットワーク機器

本製品では、以下のネットワーク機器が必要となります。

UTPまたはSTPツイストペアケーブル

10BASE-T/100BASE-TXリピータハブまたはスイッチングハブ

2. ハードウェアの接続

本章では、本製品の設置、電源のON/OFF、シリアルケーブルの接続を説明します。

1. 本製品の設置

PLASMA を設置する際には、以下の点にご注意ください。

- 湿気の多い場所に置かないでください。
- チリやほこりの多い場所には置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や温度の高い場所には設置しないでください。
- 極端に低音になる場所には設置しないでください。
- 急激な温度変化を与えないでください。
- 内部に熱がこもる原因になりますので、周囲になるべく空間を空けてください。特に背面の電源ファンを塞がないようにご注意ください。
- 本体を縦置きにする場合は、必ず製品添付のスタンドを使い安定した場所に設置してください。

注意 本マニュアルの製品仕様で定められている温度、湿度内で近くに熱源がない場所に設置してください。また、本製品のファン取りつけ口に埃などが堆積しない様に注意してください。十分な冷却が出来ない場合、誤動作または、故障などの原因になります。

2.電源ケーブルの接続

< 電源ON >

本製品に付属の電源ケーブルを本体に挿し込み、電源プラグをコンセントに挿し込み、電源スイッチを押して、正常に動作する事を確かめてください。

電源を入れて、内部ソフトウェアが起動するまで、約 2 分かかります。

< 電源OFF >

電源を切る時は必ず、設定画面よりシャットダウンしてから電源スイッチを押します。シャットダウンの操作を行ってから数分間待ち、シャットダウンが確実に終了してから電源を切ってください。

3.本製品にシリアルケーブルを接続する場合

- 1.本製品にシリアルケーブルを接続する場合は、本体前面のシリアルコネクタにシリアルケーブル(リバース結線)を接続します。

4.ネットワークの接続

■ LAN側ポートの接続

- 1.本製品のLAN側ポートにストレートタイプのUTPケーブルの一端を接続します。
- 2.UTPケーブルのもう一端をハブのノーマルポートに接続します。
- 3.本製品およびハブのLink LEDが点灯している事を確かめてください。

■ WAN側ポートの接続

- 1.本製品のWAN側ポートにストレートタイプのUTPケーブルの一端を接続します。
- 2.UTPケーブルのもう一端をモデムのMDI-Xポートに接続します。
- 3.本製品およびモデムのLink LEDが点灯している事を確かめてください。

注意 本製品のWAN/LAN各ポートはMDIです。接続先ポートがMDI-Xの場合はストレートタイプのUTPケーブルを、MDIの場合はクロスタイプのUTPケーブルで接続します。

3.WEBブラウザからの設定

本章では本製品のWEBブラウザからの設定について説明します。本製品はWEBインターフェイスから設定変更ができます。本章の「WEBブラウザからの設定」では、設定項目を説明しています。

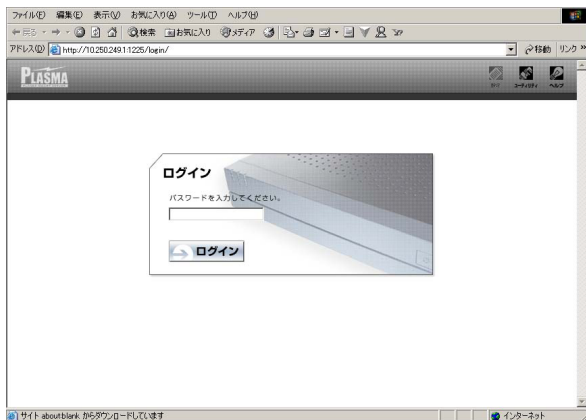
1.WEBブラウザからのアクセス

- 1.本製品は工場出荷時の設定でLAN側ポートのIPアドレスが「10.250.249.1」になっています。サブネットマスクは「255.255.255.0」です。アクセスするコンピュータのIPアドレスを同じサブネットに設定します。

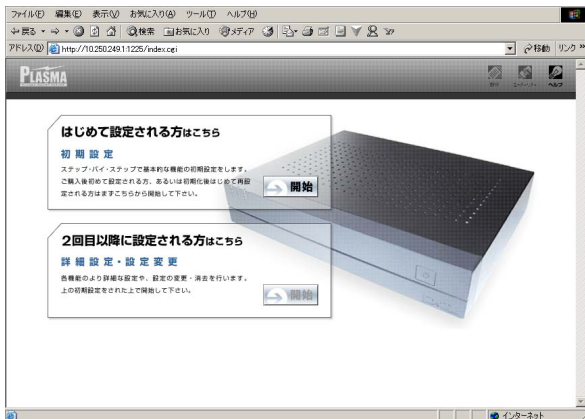
例：10.250.249.2 サブネットマスク 255.255.255.0

- 2.コンピュータのRJ-45 イーサネットポートと本製品のLAN側ポートをクロスタイプのUTPケーブルで接続します。
- 3.コンピュータを起動してから、WEBブラウザを起動します。
- 4.WEBブラウザの「場所」(または「アドレス」)欄に本製品のデフォルトIPアドレス「http://10.250.249.1:1225/」を入力し、Enterキーを押します。

- 5.本製品にログインするための認証画面が表示されます。パスワードは何も入力せずに「OK」ボタンを押します。
- 初期化完了後、ユーティリティ画面より管理者パスワードを設定します。



6.本製品のメイン・セットアップメニューが表示されます。



2. 初期設定

本サーバの初期設定をステップバイステップで行います。
初期設定は全ての設定が完了するまで設定は反映されません(保存はされます)ご注意ください。

IPアドレス設定でDHCP選択した場合及びPPPoE接続を固定IPでご利用にならない場合はいくつかの設定がスキップされます。

2-1. IPアドレスの設定

ここでは本サーバのWAN側(外向け)のIPアドレスの設定を行います。

ALL IN ONE - Microsoft Internet Explorer

初期設定

1 IP
2 DNS
3 メール
4 WWW
5 サービス
6 ファイル共有
7 ユーザ
8 完了

初期設定メニューでは、ステップバイステップですべての機能の設定を行います。
はじめに、本サーバの外向けIPアドレスの設定を行います。

☒ IPアドレスを手入力する

本サーバのIPアドレス

サブネットマスクの値

ルータのIPアドレス

☐ DHCPで接続する

ホスト名を指定する

☐ PPPoEで接続する

☐ 固定IPアドレスサービスを利用する

PPPoEのユーザーID

PPPoEのパスワード

PPPoEのパスワード(再入力)

以上でよろしければ、[次へ]をクリックして確認画面へ進みます。

スキップ リセット 次へ

■ IPアドレスを手入力する

WAN側(外向け)のIPアドレスを固定で指定する場合にチェックします。

「本サーバのIPアドレス」

プロバイダから通知されたIPアドレスを入力します。

「サブネットマスクの値」

プロバイダから通知されたサブネットマスクを入力します。

「ルータのIPアドレス」

プロバイダから通知されたルータアドレスを入力します。

プロバイダによってはデフォルトゲートウェイと指定されている場合がございます。

■ DHCPで接続する

WAN側(外向け)のIPアドレスをDHCPで取得する場合にチェックします。

「ホスト名を指定する」

DHCP接続でホスト名が必要なときにチェックしてください。

■ PPPoEで接続する

「固定IPアドレスサービスを利用する」

このチェックボックスをチェックして右側にIPアドレスを入力すると固定IPでPPPoE接続します。

「PPPoEのユーザーID」

プロバイダから指定されたPPPoE接続ユーザーIDを、正確に入力します。以下のPPPoEサービス名が指定されていない場合は“ @ ” (アットマーク) 以下も入力します。

例：pci011@planexbrl.ne.jp

注意 大文字・小文字の違いに注意して入力します。PPPoE接続ユーザー名はメールアドレス名などと異なる場合があります。

「PPPoEのパスワード」

プロバイダから指定されたPPPoE接続パスワードを、正確に入力します。セキュリティのため、この欄に文字を入力しても“ * ” (アスタリスク) 表示されます。

注意 大文字・小文字の違いに注意して入力します。PPPoE接続パスワードはメールパスワードなどと異なる場合があります。

例：rY0Co%Mtu

「PPPoEのパスワード(再入力)」

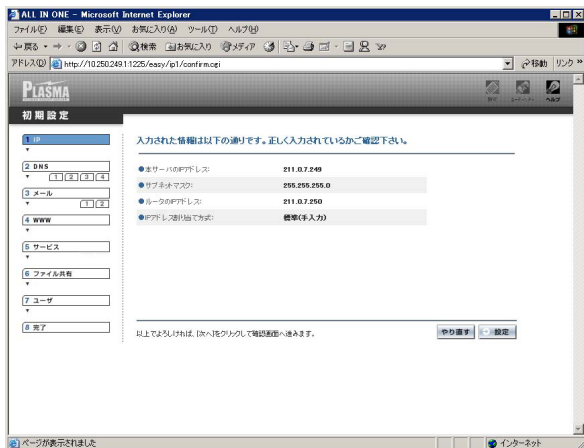
パスワードを確かめる為、再度入力します。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

2-2.確認画面(IPアドレスの設定)

ここではIPアドレスの設定で入力された内容を確認めます。

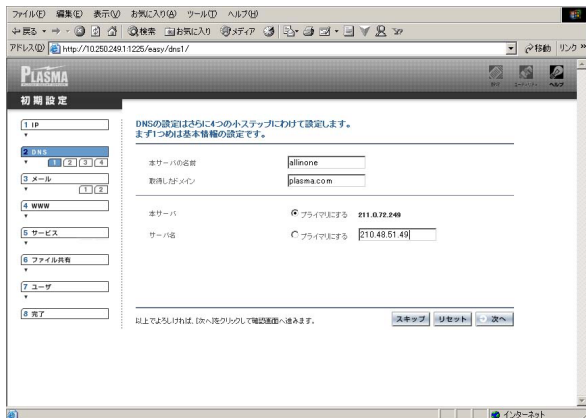


正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。IPアドレスの設定画面に戻ります。

2-3.DNSの設定(1)

ここではDNSの基本的な設定を行います。



「本サーバの名前」

本サーバに名前をつけます。一部のCATVサービスの場合はここに規定値の設定が必要な場合があります。(詳細は、CATVインターネットサービス提供会社にお問い合わせください。)

「取得したドメイン」

本サーバで運用する、取得済みのドメイン名を指定します。

例：

本サーバの名前：server

取得したドメイン：plasma.co.jp

「本サーバの役割とIPアドレス」

本サーバをプライマリドメインサーバにします。通常はこちらを選択します。

この際、以下で指定する他のサーバがセカンダリドメインサーバになります。

「他のサーバの役割とIPアドレス」

通常はセカンダリDNSサーバを指定します。プロバイダより通知されたセカンダリDNSサーバを指定します。

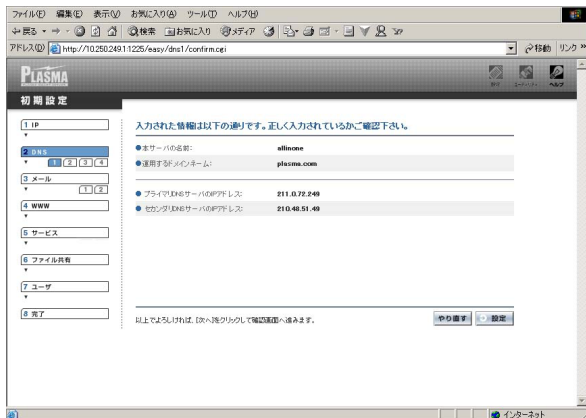
本機以外のサーバをプライマリDNSサーバに指定する場合だけ、「プライマリにする」ラジオボタンを操作します。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

2-4.確認画面(DNSの設定(1))

ここではDNSの設定(1)で入力された内容を確認めます。

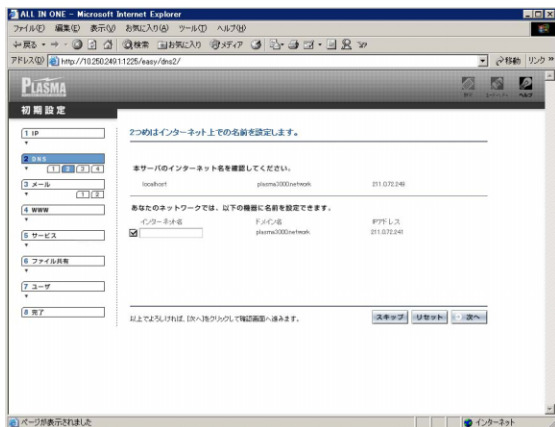


正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。DNSの設定(1)に戻ります。

2-5.DNSの設定(2)

ここでは各機器に名前を割り当てる設定を行います。



「インターネット名」

チェックボックスをチェックし、欄に名前を入力すると有効になります。

これはFQDNと呼ばれ、インターネット上から参照される名前になります。

例: www → www.plasma.or.jp

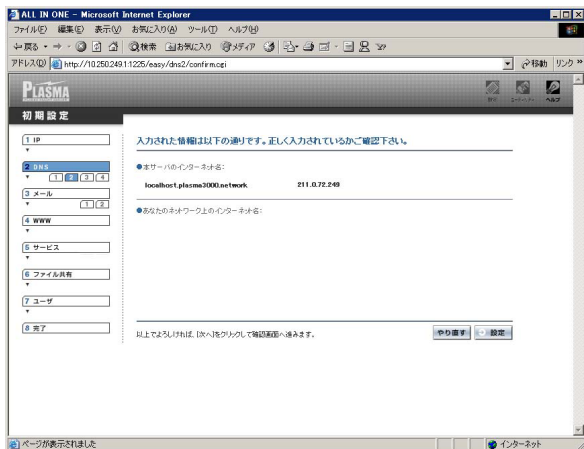
入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

「スキップ」を押すと設定をしないで次の画面が表示されます。

2-6. 確認画面 (DNSの設定 (2))

ここではDNSの設定 (2) で入力された内容が確認できます。



正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

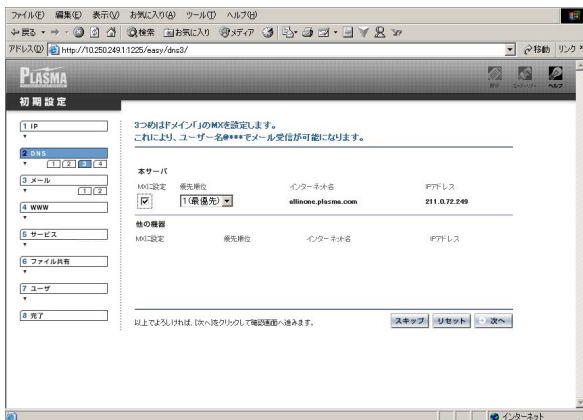
設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。DNSの設定 (2) に戻ります。

2-7.DNSの設定(3)

ここでは本サーバで運用するドメインについての、MXレコードの設定を行います。

MXレコードを設定しておく、xx@domain名宛のメール受信ができるようになります。

複数指定しておく、メールサーバになんらかのトラブルがあった場合に、優先順位順に各サーバにメール配信が試されます。



■ 本サーバ

「MXに設定」

該当するサーバに対し、MXレコードを設定します。

通常は本機だけに設定されていれば問題はありません。

「優先順位」

MXレコードの優先順位を選択します。

通常は本機が最優先になるよう順位付けします。

■ 他の機器

「MXに設定」

該当する別の機器を保険のメールサーバとしてスタンバイしておく場合に設定します。

あるいは、本サーバ以外の機器をメールの受け取りに使う場合に設定します。

「優先順位」

MXレコードの優先順位を選択します。

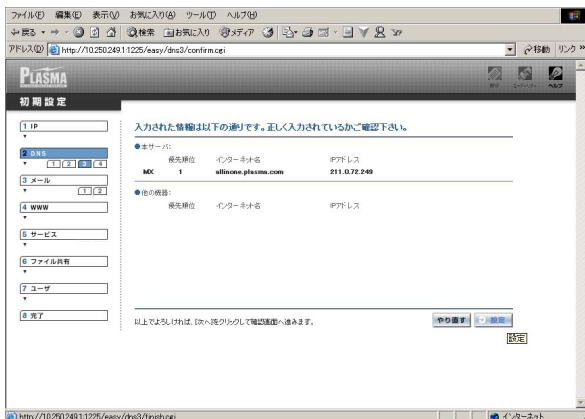
通常は本機が最優先になるよう順位付けします。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。
入力した内容がクリアされます。

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

2-8.確認画面(DNSの設定(3))

ここではDNSの設定(3)で入力された内容が確認できます。

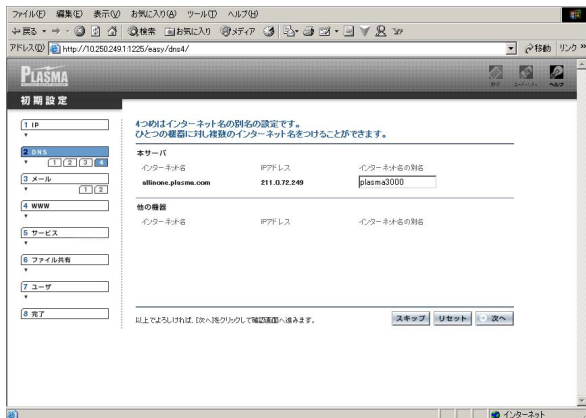


正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。DNSの設定(3)に戻ります。

2-9.DNSの設定(4)

ここではひとつの機器に複数の名前をつける設定を行います。



「インターネット名の別名」

本サーバ、他の機器に別名がつけられます。

この別名は、カンマ区切りで複数の入力ができます。

インターネット上から参照する際は、インターネット名の別名.ドメイン名となります。

例：別名登録を"ftp"とした場合

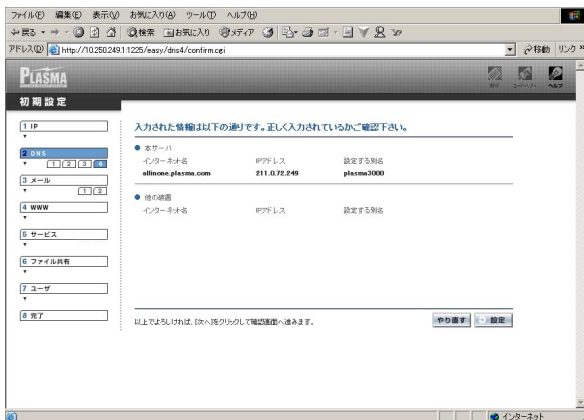
ftp.plasma.co.jpとなります。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。
入力した内容がクリアされます。

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

2-10. 確認画面 (DNSの設定 (4))

ここではDNSの設定 (4) で入力された内容が確認できます。

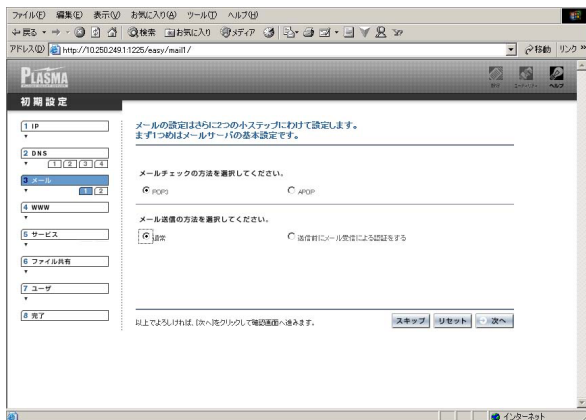


正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。DNSの設定 (4) に戻ります。

2-11.メールの設定(1)

ここではメールサーバの基本的な設定を行います。



■メールチェックの方法を選択してください。

メールを受信する方式を選択します。

「POP3」

一般的な方式です。

「APOP」

セキュリティに優れた方式です。こちらを使うためにはAPOP対応のメールソフトがクライアントにインストールされている必要があります。

注意 APOPを選択してもPOP3方式で受信を行うことができますが、セキュリティ性の高いAPOP対応メーラーの使用を推奨します。

■ メール送信の方法を選択してください。

メール送信時の認証方法を選択します。

「通常」

認証などの特別な処理なしでメール送信を行います。

「送信前にメール受信による認証をする」

メールを送信する前に受信処理を行わないと送信できない方式です。

(POP before SMTPといわれる送信方式です)

注意 「送信前にメールを受信による認証をする」を選択してもLAN側からの送信と「メールの不正中継の防止」で例外IPとして登録されているところからの送信に関しては、認証を行いません。

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

2-12. 確認画面(メールの設定(1))

ここではメールの設定(1)で入力された内容が確認できます。

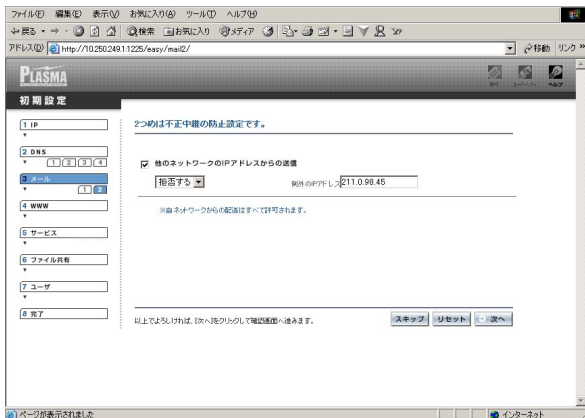
The screenshot shows a web browser window with the address bar displaying `http://10.250.249.11225/easy/mail/confirm.cgi`. The page title is "PLASMA". The main heading is "初期設定" (Initial Setup). On the left, there is a vertical list of setup steps: 1 IP, 2 DNS, 3 メール (highlighted), 4 WWW, 5 サービス, 6 ファイル共有, 7 ユーザ, and 8 完了. The main content area contains the text "入力された情報は以下の通りです。正しく入力されているかご確認ください。" (The entered information is as follows. Please confirm that it has been entered correctly). Below this, there are two rows of information: "メールチェックの方法" (POP3) and "メール送信の方法" (通常). At the bottom right, there are two buttons: "やり直す" (Retry) and "設定" (Settings). A footer note states: "以上でよろしければ、[設定]をクリックして次の画面へ進みます。" (If you are satisfied with the above, click [Settings] to proceed to the next screen).

正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。メールの設定(1)に戻ります。

2-13.メールの設定(2)

ここでは不正中継の防止設定を行います。



■他のネットワークアドレスからの送信

チェックボックスをチェックすると有効になります。他のネットワークアドレスからの送信の可否を設定します。

「拒否する」を選択すると他のネットワークアドレスからの送信を禁止してSPAMなどの不正中継を防止できます。

「許可する」を選択すると全てのネットワークアドレスからの送信を受け付けます。

「例外のIPアドレス」

拒否するを選択された場合でも送信を許可するIPアドレスを指定できます。

カンマ区切りで複数個指定できます。また"-"で範囲指定もできます。

例：211.0.98.33,61.20.137.20

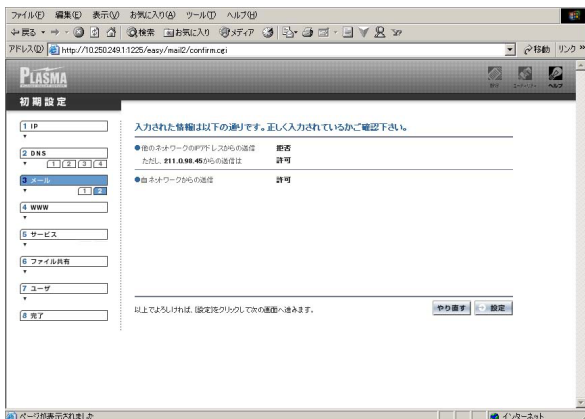
211.0.98.33-211.0.98.39

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

2-14. 確認画面(メールの設定(2))

ここではメールの設定(2)で入力された内容が確認できます。

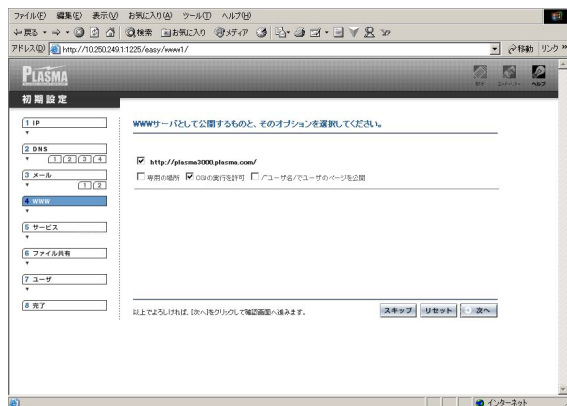


正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。メールの設定(2)に戻ります。

2-15.WWWの設定

ここではWEBサーバの設定を行います。HTMLのファイルはFILEサーバ機能で共有される場所に作成される本サーバ名フォルダにコピーすると公開できます。



「公開する」

このチェックボックスをチェックすると表示されている名前でWWW(WEB)サーバを公開します。

「専用の場所」

このチェックボックスをチェックすると表示されている名前でアクセスされた時に見えるコンテンツが独自の物となります。チェックされない場合は共通のコンテンツが表示されます。

チェックされた場合は、FILEサーバ機能で共有される場所に、そのインターネット名のフォルダが作成されます。その中に「htdocs」フォルダを作成すると、その中身が公開されます。

「CGIの実行を許可」

このチェックボックスをチェックするとCGIが実行できるようになります。

掲示板、アクセスカウンタ、ショッピングモールなどを運用する場合はチェックします。

CGIを使うには「htdocs」と同じ階層に「cgi-bin」を作成し、その中に当該CGIを設置します。

Perlのパスは"/usr/bin/perl"となります。

注意

- すべての拡張子がCGIとして扱われます。セキュリティ上の配慮にご注意ください。
- 顧客データ等を別のディレクトリに保存する構造のCGIには、対応できません。

「/ ユーザ名/でユーザのページを公開」

このチェックボックスをチェックするとplasmaに追加されたユーザごとにホームページを公開出来るようになります。

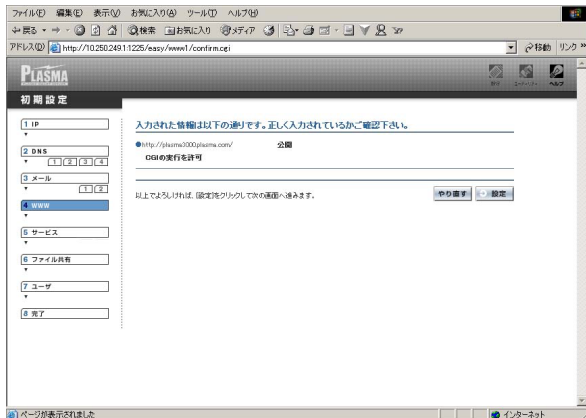
ユーザのホームディレクトリに「htdocs」フォルダを作成します。その中身が公開されます。

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

2-16. 確認画面(WWWの設定)

ここではWWWの設定で入力された内容が確認できます。

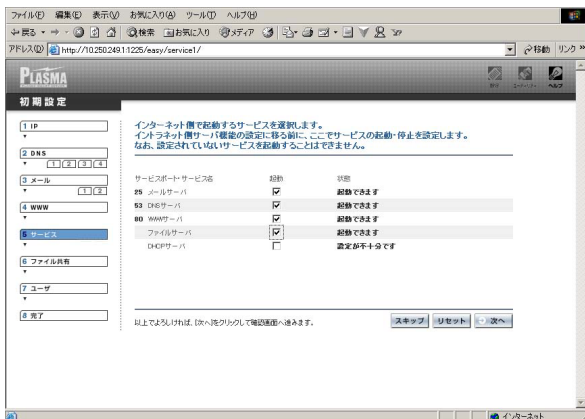


正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。WWWの設定に戻ります。

2-17.起動するサービスの設定

ここではインターネット側で起動するサービスを選択します。



「起動」

起動したいサービスを起動するに選択します。

ここで「起動する」を選択したいのに「設定が不十分です」となっている場合はここでは起動できません。

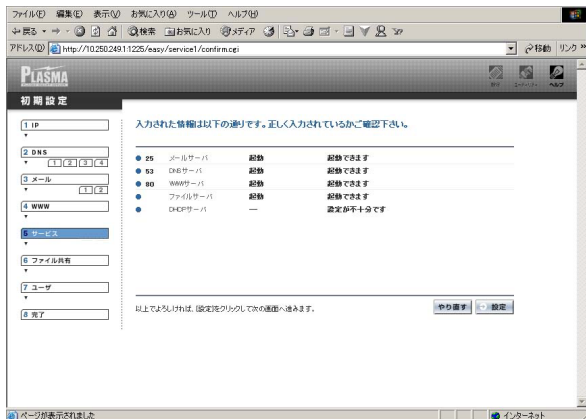
後ほど詳細設定で再設定後、詳細設定のサービス画面で起動選択します。

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

2-18. 確認画面(起動するサービスの設定)

ここでは起動するサービスの設定で入力された内容が確認できます。

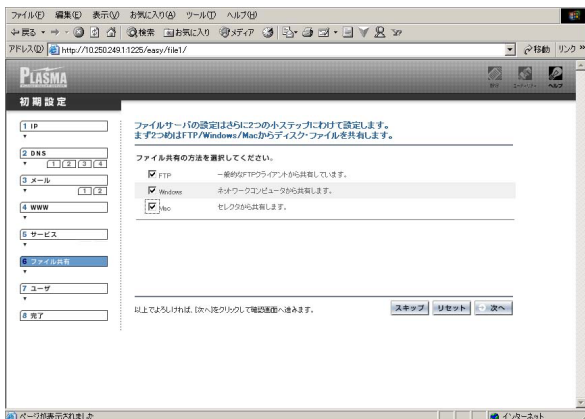


正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。起動するサービスの設定に戻ります。

2-19.FILEサーバの設定

ここではFILEサーバの設定を行います。



「FTP」

このチェックボックスをチェックするとF T Pでファイルの共有を行います。

この設定ではWindows/MacintoshにかかわらずF T Pクライアントソフトをインストールすれば共有できるようになります。

「Windows」

このチェックボックスをチェックするとWindowsからファイルが共有できるようになります。

特殊なソフトウェアは必要ありませんがWindowsにネットワーク共有のために設定をする必要があります。

「Macintosh」

このチェックボックスをチェックするとMacintoshからファイルを共有できます。

特殊なソフトウェアは必要ありませんがMacintoshにネットワーク共有のための設定をする必要があります。

「Windows で共有する場合のコンピュータ名」

Windows で表示されるコンピュータ名を入力します。

上記の「Windows」がチェックされている場合に有効です。

「Windows で共有する場合のワークグループ名」

Windows で共有する場合のワークグループ名を入力します。

上記の「Windows」がチェックされている場合に有効です。

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

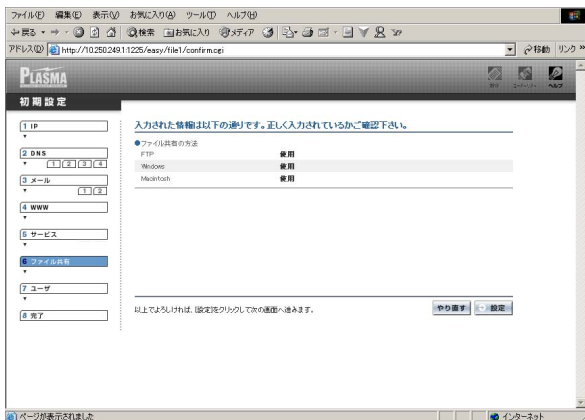
入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。
入力した内容がクリアされます。

ftp	Windows系OS	Macintosh
share	public	セレクトタよりpublicとして見える
自分のフォルダ (ログインしたときの最初の場所)	自分の名前	セレクトタよりHomeDirectory として見える

フォルダ相対応表

2-20. 確認画面(FILEサーバの設定)

FILEサーバの設定で入力された内容が確認できます。



正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。FILEサーバの設定に戻ります。

2-21. ユーザの設定

ここではユーザの設定/追加を行います。

「ユーザID」

追加するユーザ名を入力します。

省略できません。

「フルネーム」

追加するユーザのフルネームを入力します。

「パスワード」

追加するユーザのパスワードを入力します。

省略できません。

「パスワード(確認用)」

追加するユーザのパスワード確認の為、再入力します。

省略できません。

「メールを使用」

このチェックボックスをチェックすると追加するユーザがメールを使うことができるようになります。

このチェックボックスがチェックされていなくても、メールの送信はできます。

チェックボックスがチェックされていないユーザーにメール送信を行なわせたくない場合は、メールの基本情報で「送信前にメール受信による認証をする」を選択して下さい。

「メールの転送先」

メールを転送する場合の転送先アドレスを指定します。3 つまで指定ができます。

省略できます。

必要なユーザの追加が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

2-22.確認画面(ユーザの設定)

ユーザの設定で入力された内容が確認できます。

PLASMA

初 期 設 定

1 IP
▼

2 DNS
▼ 1 2 3 4

3 メール
▼ 1 2

4 WWW
▼

5 サービス
▼

6 ファイル共有
▼

7 ユーザ
▼

8 完了

入力された情報は以下の通りです。正しく入力されているかご確認ください。

● ユーザID testuser メールを作成

フルネーム testuser

パスワード 表示しません

test@test.com

以上でよろしければ、(設定)をクリックして次の画面へ進みます。

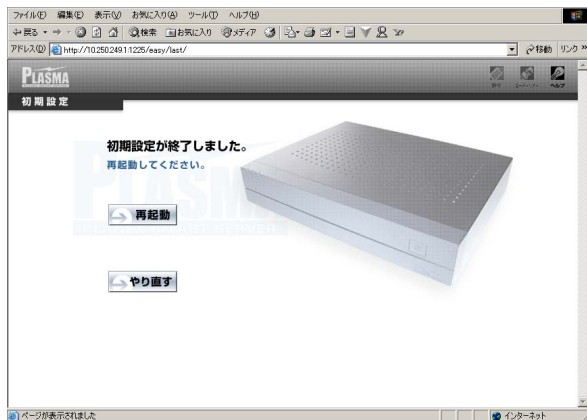
やり直す 設定

正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。ユーザの設定に戻ります。

2-23.初期設定終了

初期設定で入力された内容を反映させるため本サーバを再起動します。



「再起動」

再起動後設定が反映されます。

「やり直す」

初期設定を始めからやり直します。

(設定した値は保存されています。)

3.詳細設定・設定変更

本サーバの設定を変更できます。初期設定では、設定出来なかった細かい設定ができます。

3-1.IPアドレス

ここでは本サーバのWAN側(外向け)のIPアドレスの設定を行います。

The screenshot shows the PLASMA web interface in a browser window. The address bar shows the URL `http://10.250.249.11225/desc/pl/`. The page title is "PLASMA". The main heading is "詳細設定・設定変更" (Detailed Settings / Change Settings). On the left is a sidebar menu with various settings categories, with "IPアドレス" (IP Address) selected. The main content area is titled "外向ポートの詳細設定・設定変更を行います。" (Perform detailed settings and changes for the external port). It contains three sections: 1. "IPアドレスを手入力する" (Enter IP address manually) with input fields for "本サーバのIPアドレス" (211.0.72.249), "サブネットマスク" (255.255.255.248), and "ルータのIPアドレス" (211.0.72.250). 2. "DHCPで接続する" (Connect using DHCP). 3. "PPPoEで接続する" (Connect using PPPoE) with input fields for "PPPoEのユーザーID" (pc011@plane.brl.ne.jp), "PPPoEのパスワード" (empty), "PPPoEのパスワード(再入力)" (empty), and "特定の MSS を指定" (1454). There are checkboxes for "キーブライブ機能を使用する" and "リンクオンデマンド機能を使用する". At the bottom, there is a "リセット" (Reset) button and a "次へ" (Next) button. A note at the bottom says "以上でよろしければ、[次へ]をクリックして確認画面へ進みます。" (If you are satisfied with the above, click [Next] to proceed to the confirmation screen).

■ IPアドレスを手入力する

WAN側(外向け)のIPアドレスを固定で指定する場合にチェックします。

「本サーバのIPアドレス」

プロバイダーから通知されたIPアドレスを入力します。

「サブネットマスク」

プロバイダーから通知されたサブネットマスクを入力します。

「ルータのIPアドレス」

プロバイダーから通知されたルータアドレスを入力します。

プロバイダーによってはデフォルトゲートウェイと指定されている場合がございます。

■ DHCPで接続する

WAN側(外向け)のIPアドレスをDHCPで取得する場合にチェックします。

「ホスト名を指定する」

DHCP接続でホスト名が必要なときにしてしてください。

■ PPPoEで接続する

「固定IPアドレスサービスを利用する」

このチェックボックスをチェックして右側にIPアドレスを入力すると固定IPでPPPoE接続します

「PPPoEのユーザーID」

プロバイダから指定されたPPPoE接続ユーザーIDを、正確に入力します。以下のPPPoEサービス名が指定されていない場合は“ @ ” (アットマーク) 以下も入力します。

例：pci011@planexbrl.ne.jp

注意 大文字・小文字の違いに注意して入力します。PPPoE接続ユーザー名はメールアドレス名などと異なる場合があります。

「PPPoEのパスワード」

プロバイダから指定されたPPPoE接続パスワードを、正確に入力します。セキュリティのため、この欄に文字を入力しても“ * ” (アスタリスク) 表示されます。

注意 大文字・小文字の違いに注意して入力します。PPPoE接続パスワードはメールパスワードなどと異なる場合があります。

例：rY0Co%Mtu

「PPPoEのパスワード(再入力)」

パスワード確認の為、再度入力します。

「特殊なMSSの値を指定」

MSSの値を変更する必要がある場合は入力します。

「キーブアライブ機能を使用する」

キーブアライブを利用して接続する場合はチェックします。

「リンクオンデマンド機能を使用する」

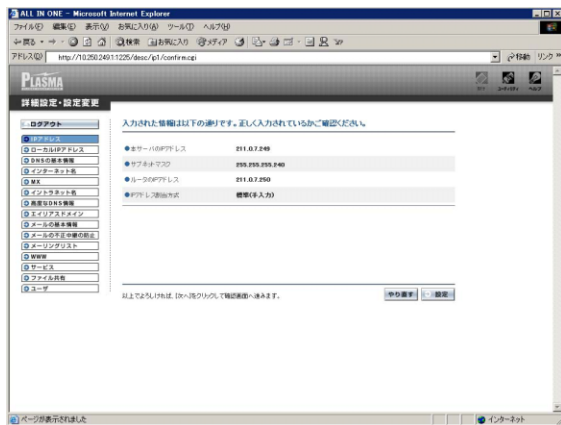
リンクオンデマンドを利用する場合はチェックします。

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

3-2. 確認画面(IPアドレス)

ここではIPアドレスの設定で入力された内容が確認できます。

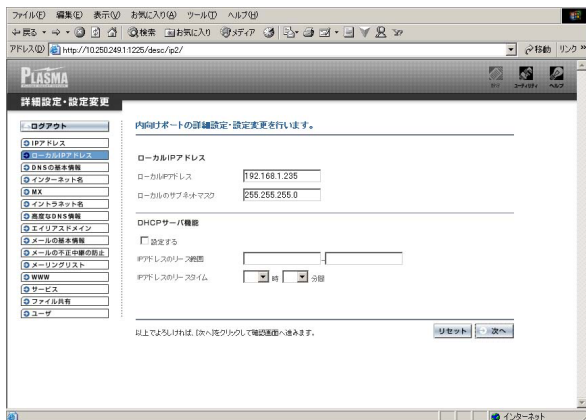


正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。IPアドレスの設定画面に戻ります。

3-3. ローカルIPアドレス

ここでは本サーバのLAN側(内向け)のIPアドレスの設定を行います。



■ ローカルIPアドレス

「ローカルIPアドレス」

LAN側に設定するIPアドレスを指定します。

本サーバはここで設定されたローカルIPアドレスのほかにコントロール用のIPアドレス "10.250.249.1" を持ちます。LAN側IPアドレスを忘れた場合このアドレスを使って設定の確認変更ができます。

入力例：192.168.1.1

「ローカルのサブネットマスク」

ローカルIPアドレスのサブネットマスクを指定します。

入力例：255.255.255.0

■ DHCP

「設定する」

DHCPの機能を使う場合にチェックします。DHCPとはクライアントにIPアドレスを配布する機能です。

「IPアドレスのリース範囲」

配布するIPアドレスの範囲を指定します。

入力例 192.168.1.100-192.168.1.200

「IPアドレスのリースタイム」

IPアドレスのリース時間を指定します。

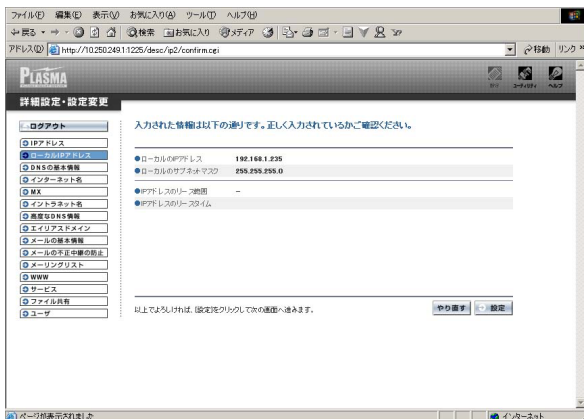
IPアドレスのリース時間が切れると、クライアントからIPを回収します。

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

3-4.確認画面(ローカルIPアドレス)

ここではIPアドレスの設定で入力された内容が確認できます。

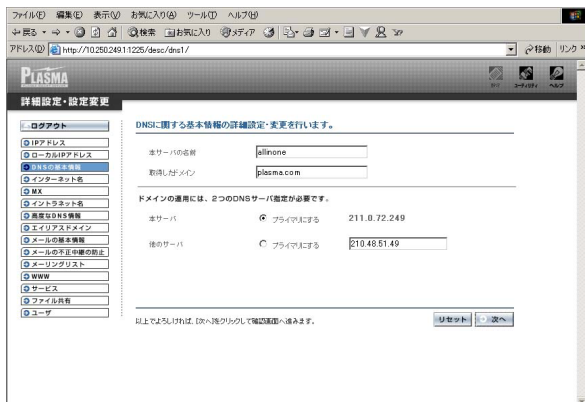


正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。ローカルIPアドレスの設定画面に戻ります。

3-5.DNSの基本情報

ここではDNSの基本的な設定を行います。



「本サーバの名前」

DNSに登録される本サーバの名前を指定します。

「取得したドメイン」

正式に取得したドメイン名を指定します。

例：

本サーバの名前：server

取得したドメイン：plasma.co.jp

この例の場合、外部から参照されるこのサーバの名前は
server.plasma.co.jp
となります。

「本サーバ/プライマリにする」

本サーバをプライマリドメインサーバにします。通常はこちらを選択します。

この際、以下で指定する他のサーバがセカンダリドメインサーバになります。

「他のサーバ/プライマリにする」

本サーバ以外にプライマリドメインサーバが存在する場合に指定してIPアドレスを入力します。

この際、本サーバがセカンダリドメインサーバになります。

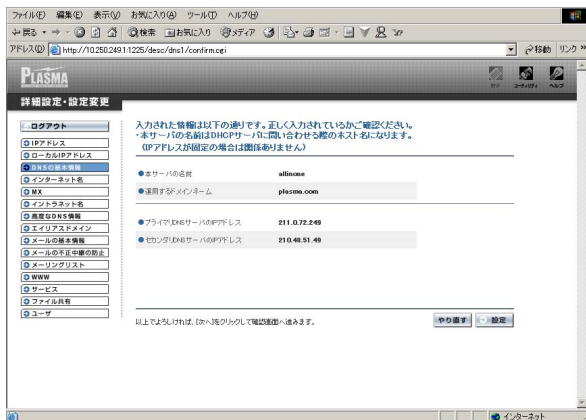
設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

注意 DNSの設定がルートサーバに反映されるには、1日～2日かかる場合があります。

3-6. 確認画面 (DNSの基本情報)

ここではDNSの設定(1)で入力された内容が確認できます。

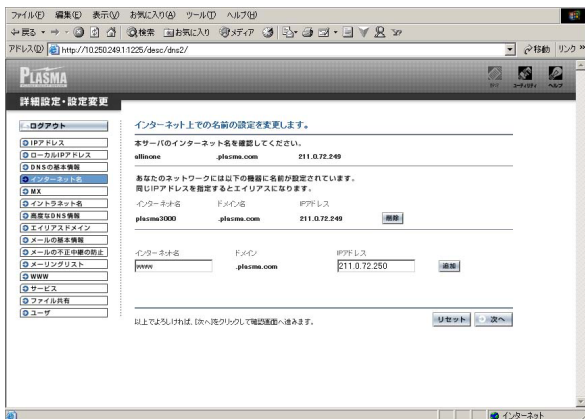


正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。DNSの基本情報に戻ります。

3-7.インターネット名

ここでは各機器に名前を割り当てる設定を行います。



「インターネット名」

公開する名前を指定します。外部からは参照するときにはインターネット名・ドメイン名の形で参照されます。

例: www

「IPアドレス」

名前に対応するIPアドレスを入力します。

例: 211.0.98.31

入力ができたら「追加」ボタンを押します。画面のリスト表示部に追加されますので、さらにインターネット名を追加するには同様の操作を繰り返します。

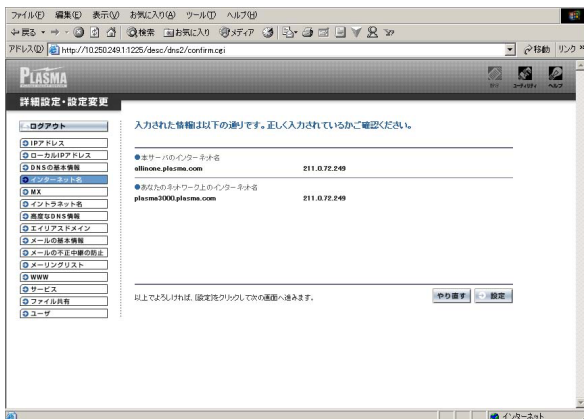
また、リスト表示されている各インターネット名には右端に「削除」ボタンがあります。これを押すことで、そのインターネット名を削除できます。一度削除したものは元に戻せませんのでご注意ください。

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

3-8.確認画面(インターネット名)

ここではインターネット名で入力された内容が確認できます。

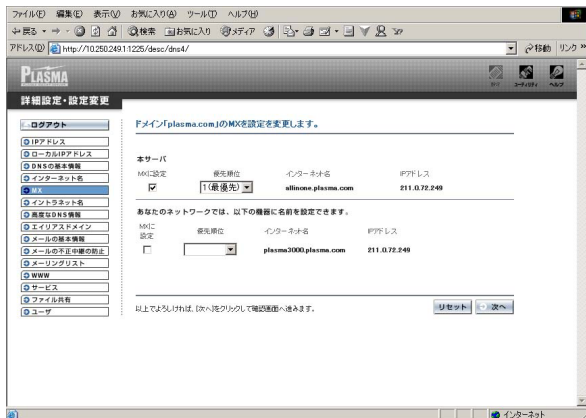


正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。インターネット名に戻ります。

3-9.MX

ここではメールサーバに関する設定を行います。



■ 本サーバ

「MXに設定」

本サーバをメールサーバにする時にチェックします。

「優先順位」

本サーバをメールサーバにする場合の他のメールサーバとの優先順位を選択します。

■ 他の機器

「MXに設定」

本サーバ以外にメールサーバが存在する場合に設定します。

「優先順位」

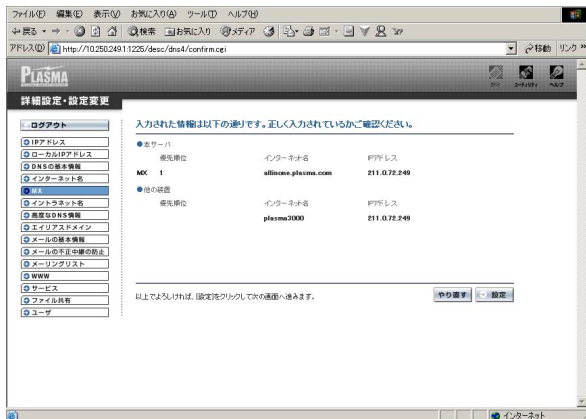
メールサーバの優先順位を選択します。

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

3-10.確認画面(MX)

ここではMXで入力された内容が確認できます。

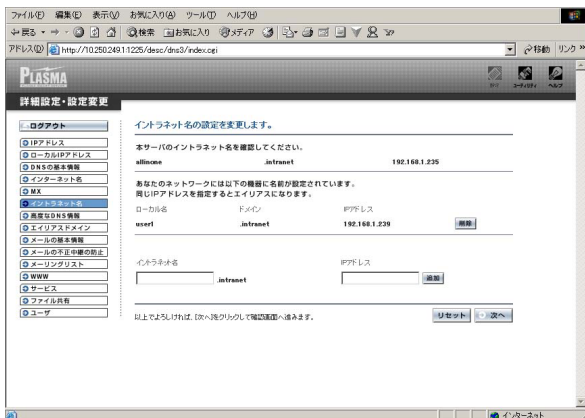


正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。MXに戻ります。

3-11.イントラネット名

ここではイントラネット名に関する設定を行います。



「イントラネット名」

イントラネット名を入力します。

「IPアドレス」

入力したイントラネット名に該当する機器のIPアドレスを指定します。

例: 192.168.1.100

「追加」

このボタンを押すとイントラネット名が追加されます。

「削除」

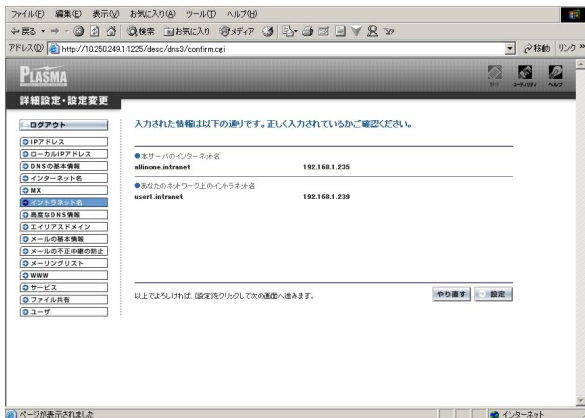
このボタンを押すとイントラネット名が削除されます。

必要な追加が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

3-12. 確認画面(イントラネット名)

ここではイントラネット名で入力された内容が確認できます。



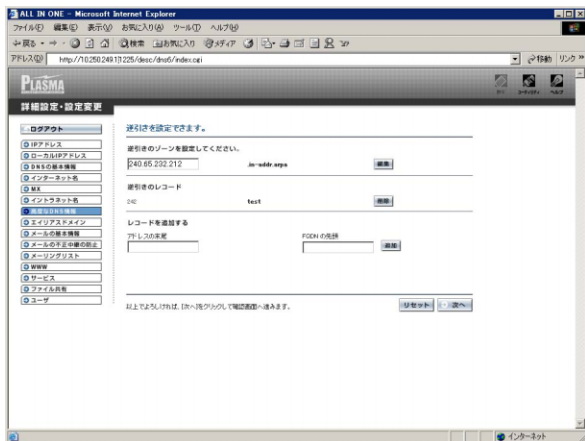
正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。イントラネット名に戻ります。

3-13.高度なDNS情報

ここでは逆引きに関する設定を行います。

逆引きはIPアドレスから名前を割り出すための情報を公開するための設定です。



「逆引きのゾーンの設定を設定してください」

通常は、取得しているネットワークアドレスを逆に変換したものを
を入力します

例：212.232.65.240の場合 → 240.65.232.212

また、特殊な設定をしなければいけないプロバイダーも存在します。
「3 WEBの場合」212.232.65.240の場合 → 240A.65.232.212 先頭の数字の後ろに"A"をつけます
「DIONの場合」212.232.65.240の場合 → 240h.65.232.212 先頭の数字の後ろに"h"をつけます

入力が完了しましたら、「編集」ボタンを押します。

注意 編集ボタンを押すと、すでに追加されているレコードがある場合、クリアされます。ご注意ください。

「レコードを追加する」

入力したイントラネット名に該当する機器のIPアドレスを指定します。

「IPアドレスの末尾」

取得したIPアドレスの範囲の末尾の数字を入力します。

例：210.232.65.242の場合 → 242

「インターネット名」

入力したアドレスに対応する名前を入力します。

「追加」

このボタンを押すとレコードが追加されます。

「削除」

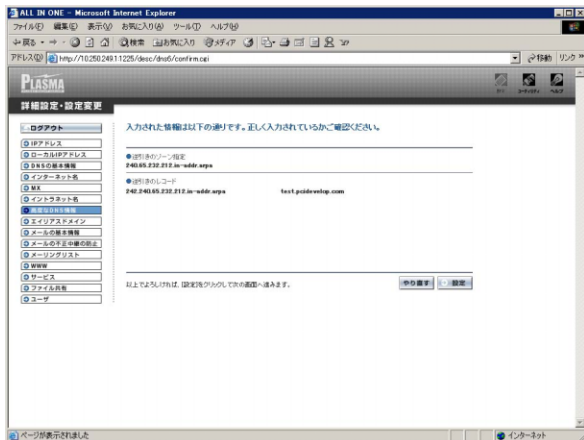
このボタンを押すとレコードが削除されます。

必要な追加/設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

3-14. 確認画面(逆引き)

ここではイントラネット名で入力された内容が確認できます。



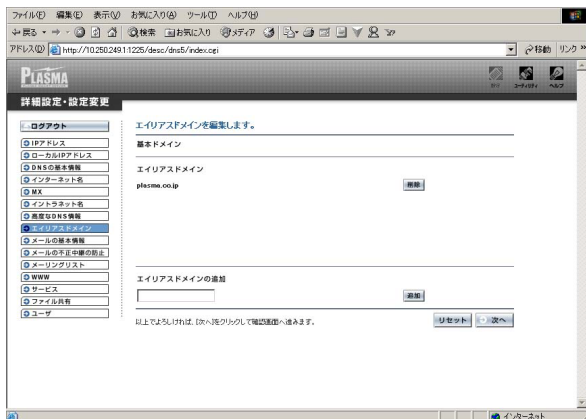
正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。逆引きに戻ります。

3-15.エイリアスドメイン

ここではエイリアスドメインに関する設定を行います。

エイリアスドメインとは、取得済みの別のドメインをPlasmaに割り当てる設定です。



「エイリアスドメインの追加」

追加するドメイン名を入力します。

例:plasma.com

「追加」

このボタンを押すとエイリアスドメインが追加されます。

「削除」

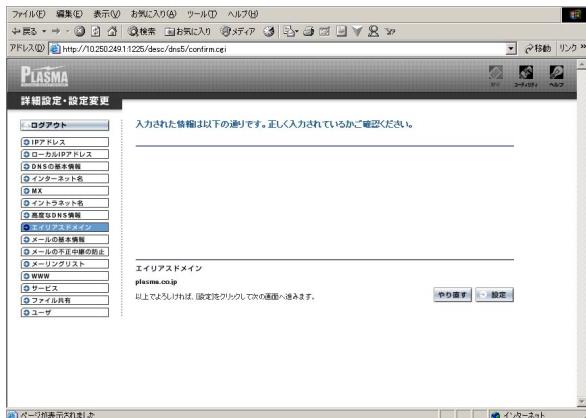
このボタンを押すとエイリアスドメインが削除されます。

必要な追加/削除が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

3-16.確認画面(エイリアスドメイン)

ここではエイリアスドメインで入力された内容が確認できます。

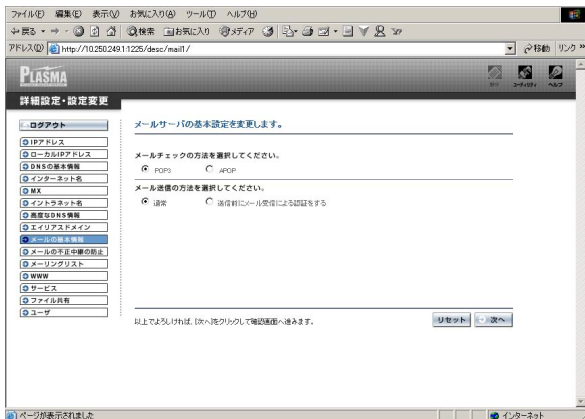


正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。エイリアスドメインに戻ります。

3-17.メールの基本情報

ここではメールサーバの基本的な設定を行います。



■メールチェックの方法を選択してください。
メールを受信する方式を選択します。

「POP3」

一般的な方式です。

「APOP」

セキュリティに優れた方式です。こちらを使うためにはAPOP
対応のメールソフト

がクライアントにインストールされている必要があります。

注意 APOPを選択してもPOP3方式で受信を行うことができますが、セキュリティ性の高いAPOP対応メーラーの使用を推奨します。

■ メール送信の方法を選択してください。

メール送信時の認証方法を選択します。

「通常」

認証などの特別な処理なしでメール送信を行います。

「送信前にメール受信による認証をする」

メールを送信する前に受信処理を行わないと送信できない方式です。

(POP before SMTPといわれる送信方式です)

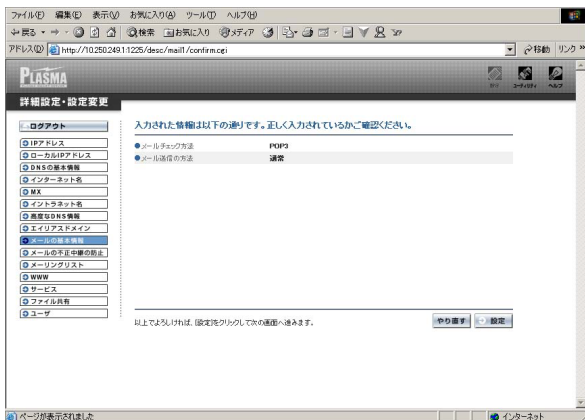
注意 「送信前にメールを受信による認証をする」を選択してもLAN側からの送信と「メールの不正中継の防止」で例外IPとして登録されているところからの送信に関しては、認証を行いません。

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。
入力した内容がクリアされます。

3-18. 確認画面(メールの基本情報)

ここではメールの基本情報で入力された内容が確認できます。

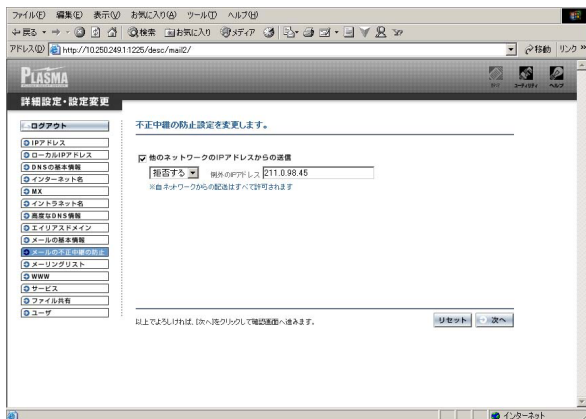


正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。メールの基本情報に戻ります。

3-19.不正中継の防止

ここでは不正中継の防止設定を行います。



■他のネットワークアドレスからの送信

チェックボックスをチェックすると有効になります。他のネットワークアドレスからの送信の可否を設定します。

「拒否する」を選択すると他のネットワークアドレスからの送信を禁止してSPAMなどの不正中継を防止できます。

「許可する」を選択すると全てのネットワークアドレスからの送信を受け付けます。

「例外のIPアドレス」

拒否するを選択された場合でも送信を許可するIPアドレスを指定できます。

カンマ区切りで複数個指定できます。また "-" で範囲指定もできます。

例：211.0.98.33,61.20.137.20

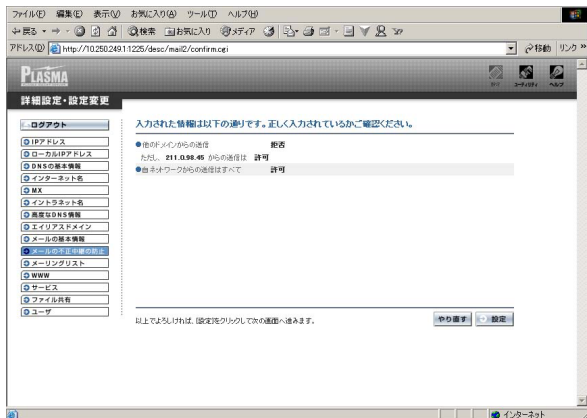
211.0.98.33-211.0.98.39

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。
入力した内容がクリアされます。

3-20. 確認画面(不正中継の防止)

ここでは不正中継の防止で入力された内容が確認できます。



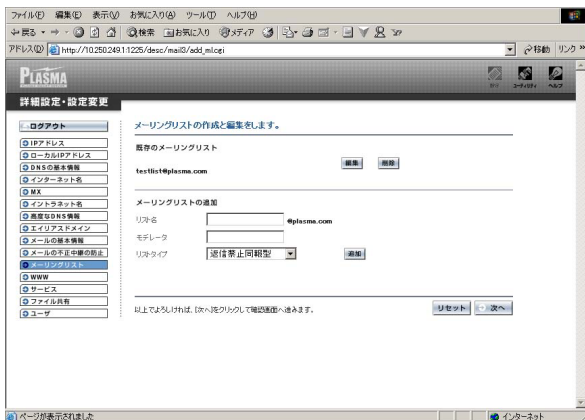
正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。不正中継の防止に戻ります。

3-21. メーリングリスト

ここではメーリングリストの作成と編集をします。

メーリングリストとはメールによる回覧板のようなものです。



■ メーリングリストの追加

「リスト名」

メーリングリストの名前を入力します。

メーリングリストはここで入力した名前に@ドメイン名を加えたものをメーリングリスト

のメールアドレスとします。

メーリングリストへの登録は設定画面でも出来ましたが作ったメーリングリストの名前に

subscribeをつけたあて先に投稿すると自動登録されます。

例：test@plasma.co.jpならばtest-subscribe@plasma.co.jpになります。

「モデレータ」

メーリングリストの主催者のメールアドレスを入力します。

例：test@plasma.co.jp

subscribeでの自動登録の流れ

登録したいユーザが-subscribe付きでメールを送信

↓

confirm subscribe toがユーザに対して送られてくるのでこれに何も記入しないメールを返信

↓

登録完了

「リストタイプ」

メーリングリストのタイプを選択します。

返信禁止同報型

表題の形式 → [ml-name]mail subject

誰でも投函できますが、モデレータによる審査が必要です

顧客対応型

表題の形式 → [ml-name: 1]mail subject (連番がつきます)

登録者のみ投函できます

コミュニケーション型

表題の形式 → [ml-name: 1]mail subject (連番がつきます)

誰でも投函できます

「追加」

このボタンを押すとメーリングリストが追加されます。

■ 既存のメーリングリスト

登録済みのメーリングリストを表示します。

「編集」

このボタンを押すと追加済みメーリングリストの加入者を編集する画面を表示します。

「削除」

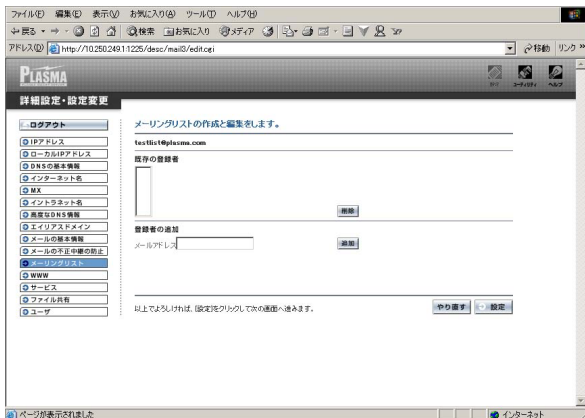
このボタンを押すと追加済みメーリングリストを削除します。

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

3-22.メーリングリスト編集

ここでは既存のメーリングリストのユーザの編集をします。



「削除」

既存の登録者を選択してこのボタンを押すと登録済みユーザを削除します。

■ 登録者の追加

「メールアドレス」

このメーリングリストに追加したいメールアドレスを入力します。

「追加」

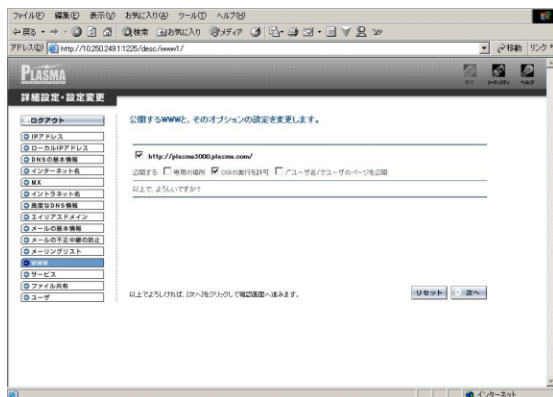
このボタンを押すとメールアドレスに入力されたユーザが追加されます。

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

3-23.WWW

ここではWEBサーバーの設定を行います。HTMLのファイルはFILEサーバ機能で共有される場所に作成される本サーバ名フォルダにコピーすると公開できます。



「公開する」

このチェックボックスをチェックすると表示されている名前でWWW(WEB)サーバを公開します。

「専用の場所」

このチェックボックスをチェックすると表示されたい名前アクセスされた時に見えるコンテンツが独自の物となります。チェックされない場合は共通のコンテンツが表示されます。

チェックされた場合は、FILEサーバ機能で共有される場所に、そのインターネット名のフォルダが作成されます。その中に「htdocs」フォルダを作成すると、その中身が公開されます。

「CGIの実行を許可」

このチェックボックスをチェックするとCGIが実行できるようになります。

掲示板、アクセスカウンタ、ショッピングモールなどを運用する場合はチェックします。

CGIを使うには「htdocs」と同じ階層に「cgi-bin」を作成し、その中に当該CGIを設置します。

Perlのパスは"/usr/bin/perl"となります。

注意

- すべての拡張子がCGIとして扱われます。セキュリティ上の配慮にご注意ください。
- 顧客データ等を別のディレクトリに保存する構造のCGIには、対応できません。

「/ ユーザ名/でユーザのページを公開」

このチェックボックスをチェックするとplasmaに追加されたユーザごとにホームページを公開出来るようになります。

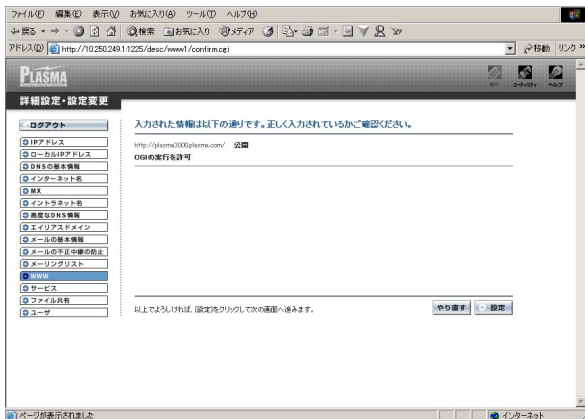
ユーザのホームディレクトリに「htdocs」フォルダを作成します。その中身が公開されます。

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

3-24.確認画面(WWW)

ここではWWWで入力された内容が確認できます。

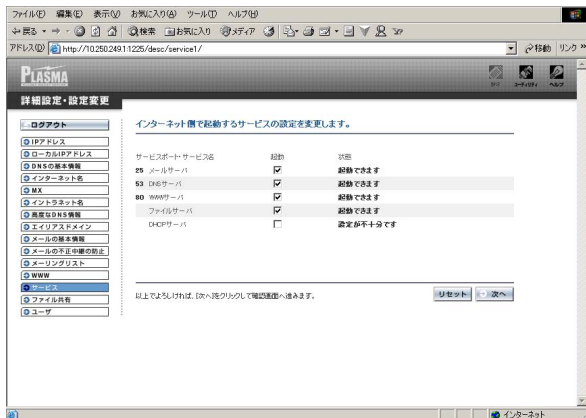


正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。WWWに戻ります。

3-25. サービス

ここではインターネット側で起動するサービスを選択します。



「起動」

起動したいサービスを起動するに選択します。

ここで起動するを選択したいのに「設定が不十分です」となる場合はここでは起動できません。

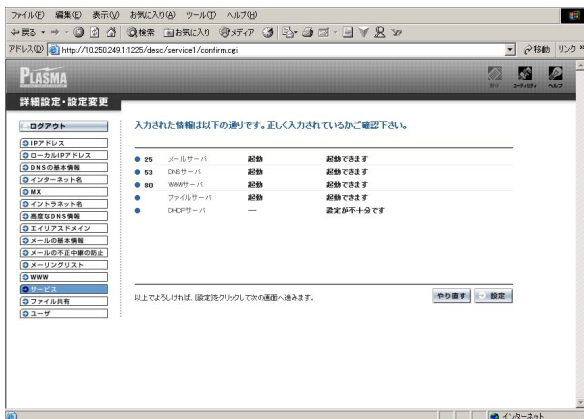
後ほど詳細設定で再設定後、詳細設定のサービス画面で起動選択します。

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

3-26 確認画面(サービス)

ここでは起動するサービスの設定で入力された内容が確認できます。

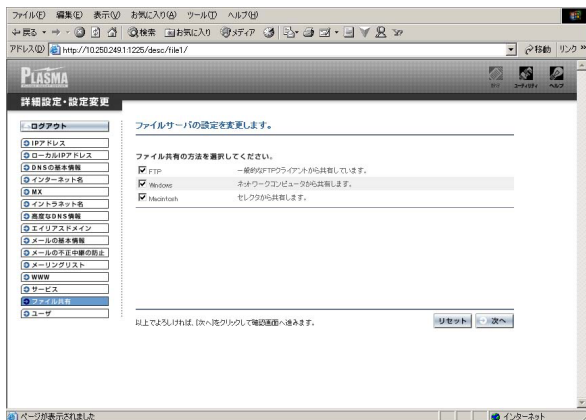


正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。サービスに戻ります。

3-27.ファイル共有

ここではファイル共有の設定を行います。



「FTP」

このチェックボックスをチェックするとFTPでファイルの共有を行います。

この設定ではWindows/MacintoshにかかわらずFTPクライアントソフトをインストールすれば共有できるようになります。

「Windows」

このチェックボックスをチェックするとWindowsからファイルが共有できるようになります。

特殊なソフトウェアは必要ありませんがWindowsにネットワーク共有のために設定をする必要があります。

「Macintosh」

このチェックボックスをチェックするとMacintoshからファイルを共有できます。

特殊なソフトウェアは必要ありませんがMacintoshにネットワーク共有のための設定をする必要があります。

「Windowsで共有する場合のコンピュータ名」

Windowsで表示されるコンピュータ名を入力します。

上記の「Windows」がチェックされている場合に有効です。

「Windowsで共有する場合のワークグループ名」

Windowsで共有する場合のワークグループ名を入力します。

上記の「Windows」がチェックされている場合に有効です。

設定が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

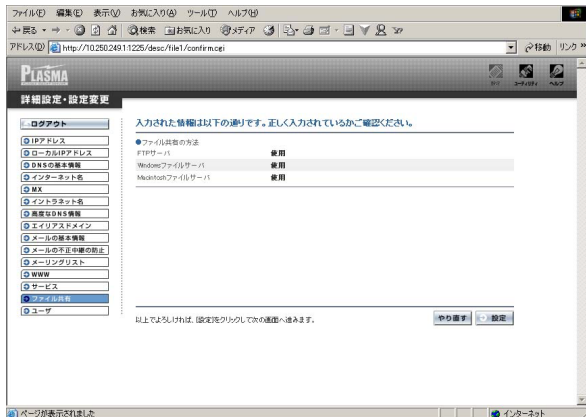
入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

ftp	Windows系OS	Macintosh
share	public	セレクトタよりpublicとして見える
自分のフォルダ (ログインしたときの最初の場所)	自分の名前	セレクトタよりHomeDirectory として見える

フォルダ対応表

3-28.確認画面(ファイル共有)

ファイル共有で入力された内容が確認できます。

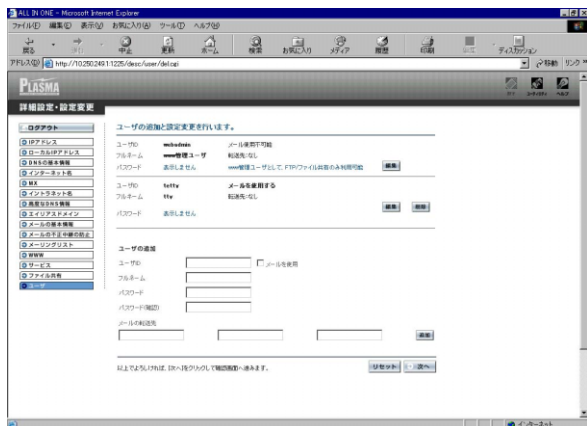


正しく設定されている事が確かめられましたら「設定」ボタンを押します。設定が保存されます。

設定を修正したい場合は「やり直す」ボタンを押します。ファイル共有に戻ります。

3-29. ユーザ

ここではユーザの設定/追加を行います。



「ユーザID」

追加するユーザ名を入力します。

省略できません。

「フルネーム」

追加するユーザのフルネームを入力します。

省略できません。

「パスワード」

追加するユーザのパスワードを入力します。

省略できません。

「パスワード(確認)」

追加するユーザのパスワード確認の為、再入力します。
省略できません。

「メールを使用」

このチェックボックスをチェックすると追加するユーザがメールを使う事ができるようになります。

「メールの転送先」

メールを転送する場合の転送先アドレスを指定します。3つまで指定できます。
省略ができます。

必要なユーザの追加が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。
入力した内容がクリアされます。

「編集」

このボタンを押すとユーザの編集画面を表示します。

「削除」

このボタンを押すとユーザを削除します。

3-30.ユーザの編集

ここでは追加済みユーザの設定変更を行います。

The screenshot shows a web browser window with the address bar displaying <http://10.250.249.11225/desc/user/edit.cgi>. The page title is "PLASMA" and the main heading is "詳細設定・設定変更" (Detailed Settings / Change Settings). On the left is a sidebar menu with various system settings, with "ユーザー" (User) selected. The main content area is titled "入力された情報は以下の通りです。正しく入力されているかご確認ください。" (The entered information is as follows. Please confirm it is entered correctly). Under the "ユーザの追加" (Add User) section, the following fields are visible: "ユーザID" (User ID) with the value "test", "フルネーム" (Full Name) with an empty text box, "パスワード" (Password) with masked characters "*****", and "パスワード(確認)" (Password (Confirmation)) with masked characters "*****". There is a checkbox "メールを使用" (Use Email) which is checked. Below these is a "メールの転送先" (Email Forwarding Destination) section with a text box containing "pl@test.com" and two empty text boxes, followed by a "送信" (Send) button. At the bottom, there is a note: "以上でよろしければ、[次へ]をクリックして確認画面へ進みます。" (If you are satisfied with the above, click [Next] to proceed to the confirmation screen). There are "リセット" (Reset) and "次へ" (Next) buttons at the bottom right.

「フルネーム」

ユーザのフルネームを入力します。

省略できません。

「パスワード」

ユーザのパスワードを入力します。

省略できません。

「パスワード(再入力)」

ユーザのパスワード確認の為、再入力します。

省略できません。

「メールを使用」

このチェックボックスをチェックするとユーザがメールを使う事ができるようになります。

「メールの転送先」

メールを転送する場合の転送先アドレスを指定します。

「追加」

このボタンを押すとユーザ情報の変更を行います。

必要なユーザの変更が終了したら「次へ」ボタンを押します。確認画面が表示されます。

入力した内容をクリアしたい場合は「リセット」ボタンを押します。入力した内容がクリアされます。

■ webadminユーザについて

webadminはwww管理メンテナンス用ユーザです。編集ボタンを押すと、パスワード編集画面が表示されます。

「パスワード」

パスワードを入力します。

省略できません。

「パスワード(確認)」

パスワード確認の為、再入力します。

省略できません。

「反映」

このボタンを押すとパスワード変更が反映されます。

注意

- webadminのパスワードは購入後なるべく早めにご変更ください。
- webadminでwindowsファイル共有を行う場合は必ずwindowsの起動時のログインユーザ名を"webadmin"としてください。

webadminユーザの見えるフォルダについて

default_localhtdocs LAN側のIPアドレスでアクセスされたときのwwwコンテンツ格納場所です。

default_web …… デフォルトのwwwコンテンツ格納場所です。
wwwの設定で専用の場所にしない場合、こちらのコンテンツが表示されます。

ホスト名+ドメイン名…専用の場所にした時のコンテンツ収容場所

4.ユーティリティ

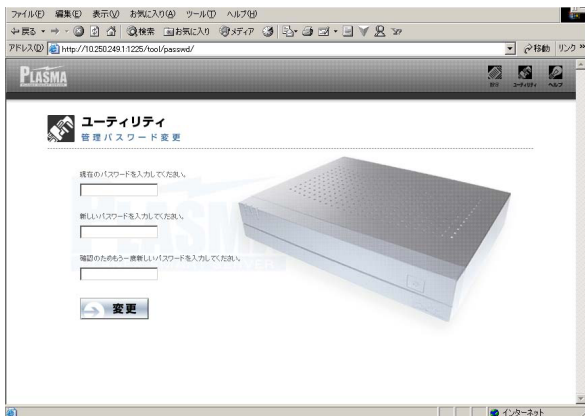
ファームのアップデート、パスワードの変更などのメニューです。



各画面の右上のユーティリティボタンから呼び出されます。

4-1.管理パスワード変更

管理画面に入るためのパスワードを変更します。



「現在のパスワードを入力してください。」

現在設定されているパスワードを入力します。

「新しいパスワードを入力してください。」

新しいパスワードを入力します。

「確認のためもう一度新しいパスワードを入力してください。」

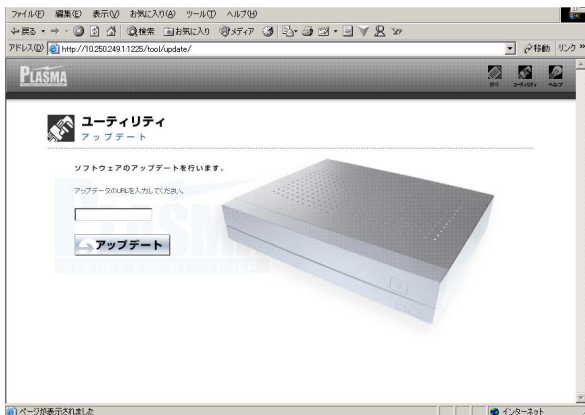
誤ったパスワードを設定するのを防止するためもう一度パスワードを入力します。

「変更」

このボタンを押すと新しいパスワードに変更されます。

4-2.アップデート

ファームウェアをアップデートします。



「アップデータのURLを入力してください」

弊社サーバより最新版を直接取得する場合は、場所を指定する必要はありません。アップデートファイルを別に取得した場合には、場所を指定します。

注意 取得したアップデートファイルはWWWサーバに保存してある必要があります。

「アップデート」

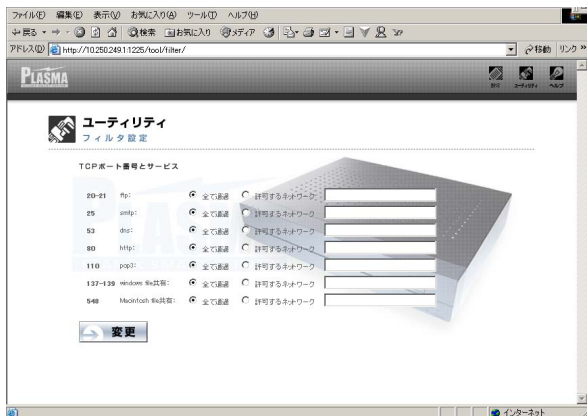
このボタンを押すとアップデートを開始します。

環境によっては、処理に時間がかかります。アップデート中に処理を中段すると故障する場合があります。

4-3.フィルタ設定

各サービスの通過/非通過を設定します。

Plasmaを通してインターネットに接続しているクライアントのサービスを制限します。



「全て通過」

すべてのネットワークからの使う事を許可します。

「許可するネットワーク」

許可するネットワークをIPアドレスで指定できます。
カンマ区切りで複数個指定できます。

例：211.0.98.33,61.20.137.20

20-21 ftp：FTP

25 smtp：メールの送信

53 dns：ネームサーバの参照

80 http：webの参照 wwwを制限

110 pop3：メールの受信

137-139 windows file共有：Windows OSのファイル共有

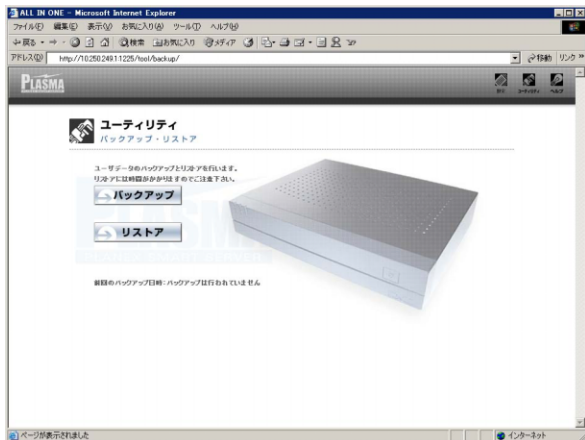
548 Macintosh file共有：Mac OSのファイル共有

「変更」

このボタンを押すとフィルタの設定が変更されます。

4-4. バックアップ・リストア

ユーザの設定データをバックアップ・リストアします。



「バックアップ」

このボタンを押すと現在の設定が保存されます。

「リストア」

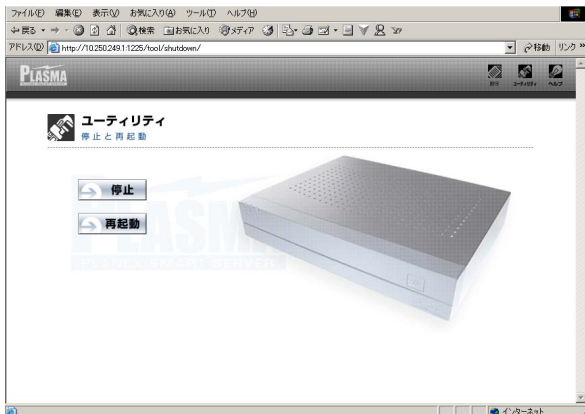
このボタンを押すと保存されたデータから設定を読み込みます。

注意

- バックアップでは設定は一つのみ保存できます。
- バックアップではユーザのデータ、アップロードしたWEBコンテンツは、保存されません。これらの物は必ず各ユーザがバックアップを行うようにしてください。

4-5.停止と再起動

本機の停止と再起動を行います。



「停止」

本機を停止して電源を落とせる状態にします。

停止には1分少々かかります。停止する前に電源を落とすと故障の原因となります。ご注意ください。

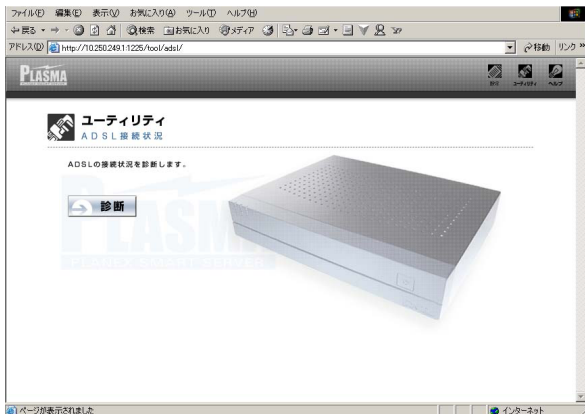
「再起動」

本機を再起動します。

再起動には数分かります。故障ではないのでご注意ください。

4-6.ADSL接続状況

ADSLの接続状況を確認られます。

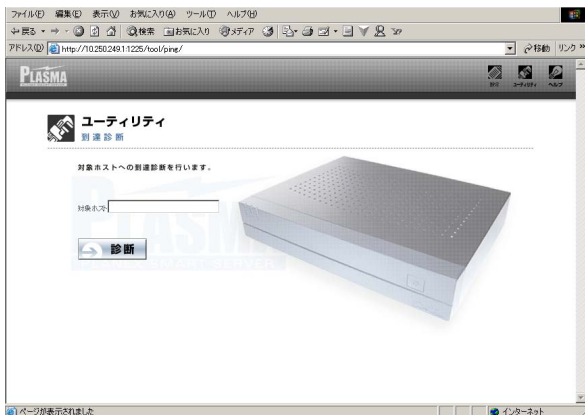


「診断」

このボタンを押すとADSL接続状況の診断を行います。

4-7.到達診断

ホストへのネットワーク到達診断を行います。



「対象ホスト」

到達診断をしたいホスト名を入力します。

例：www.planex.co.jp

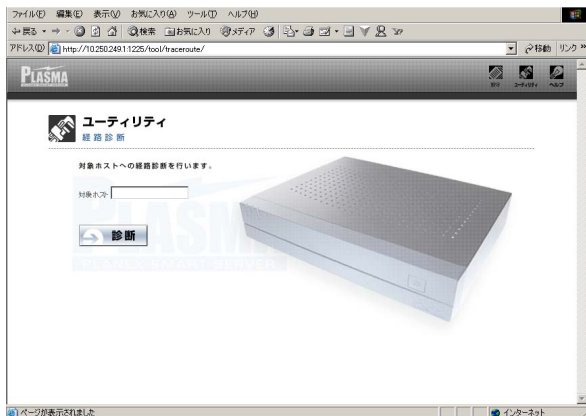
192.168.1.100

「診断」

このボタンを押すと診断を開始します。

4-8.経路診断

ホストへのネットワーク経路情報の診断を行います。



「対象ホスト」

経路情報の診断をしたいホスト名を入力します。

例：www.planex.co.jp

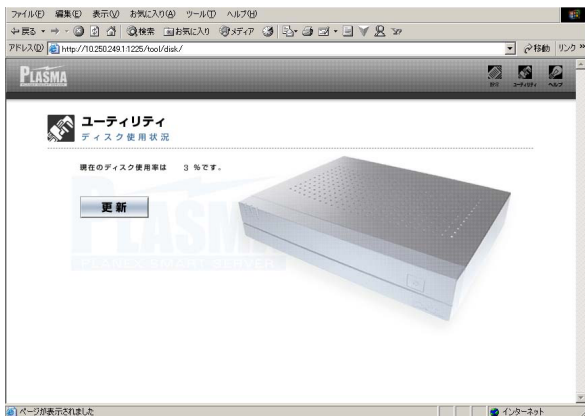
192.168.1.100

「診断」

このボタンを押すと診断を開始します。

4-9. ディスク使用状況

ディスクの現在の使っている率を表示します。

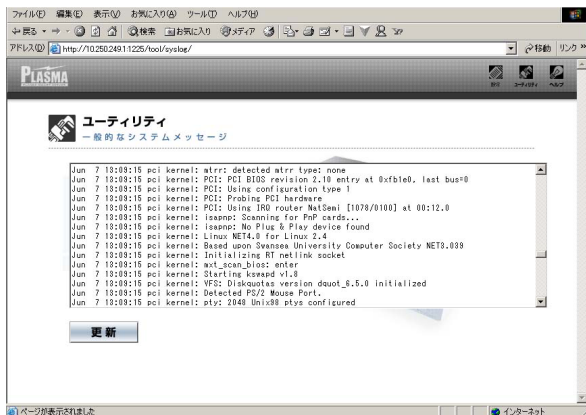


「更新」

このボタンを押すと使っている率の情報を更新します。

4-10.一般的なシステムメッセージ

一般的なシステムメッセージを表示します。

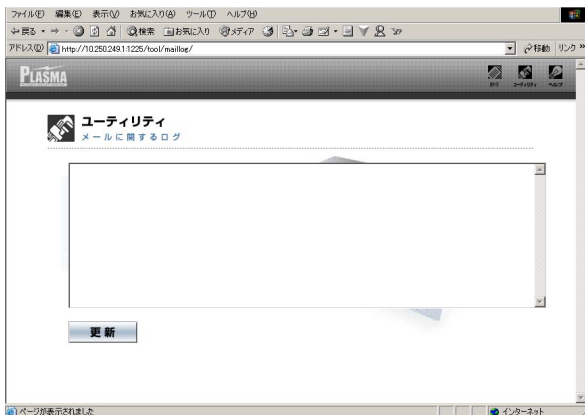


「更新」

このボタンを押すとシステムメッセージ情報を更新します。

4-11.メールに関するログ

メールの配信情報を表示します。

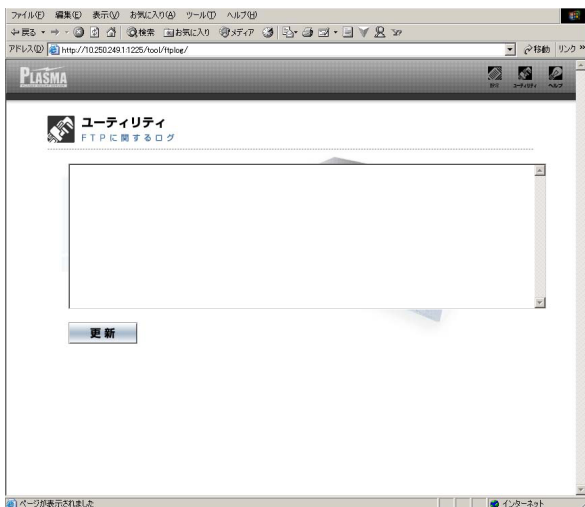


「更新」

このボタンを押すとメールの配信情報を更新します。

4-12.FTPに関するログ

FTPを使った情報のログを表示します。

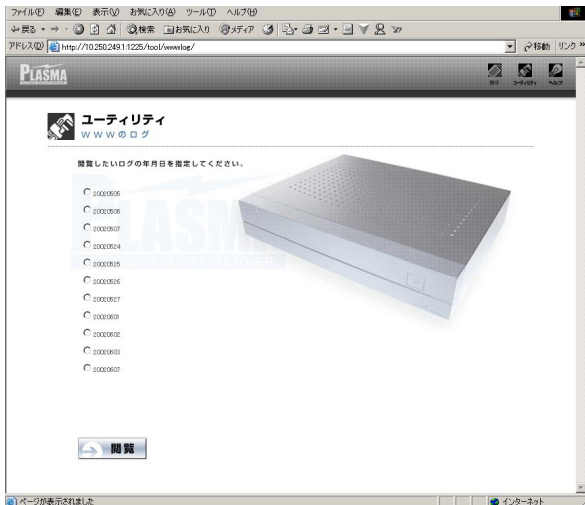


「更新」

このボタンを押すとFTPの使った情報のログを更新します。

4-13.WWWのログ

WWWを使った情報のログを表示します。

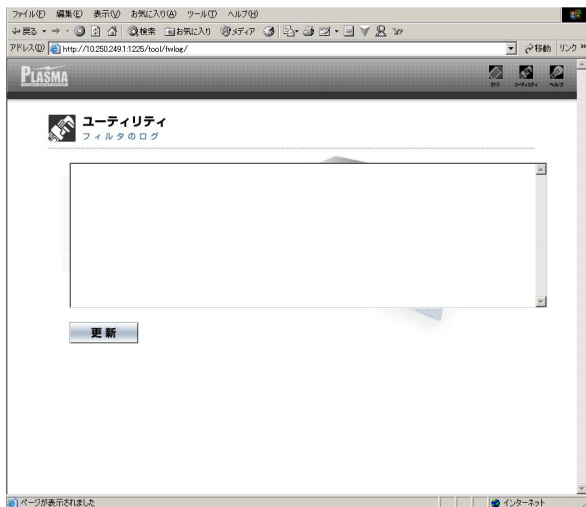


「閲覧」

表示するログの年月日をチェックしてから、このボタンを押すと別ウィンドウに表示されます。

4-14.フィルタのログ

フィルタのログを表示します。



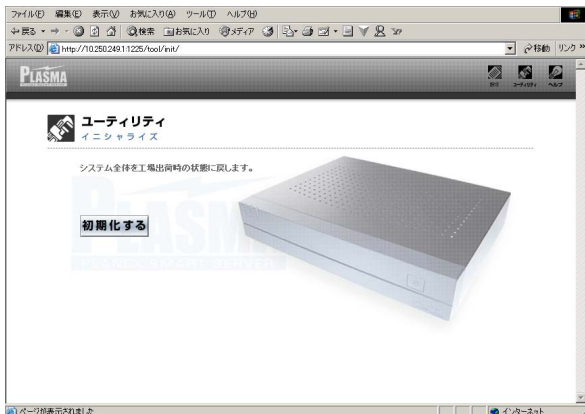
「更新」

このボタンを押すとフィルタのログを更新します。

4-15.初期化

本機の状態を工場出荷時に戻します。

初期化をすると全てのデータが初期状態になります。ご注意ください。



「初期化する」

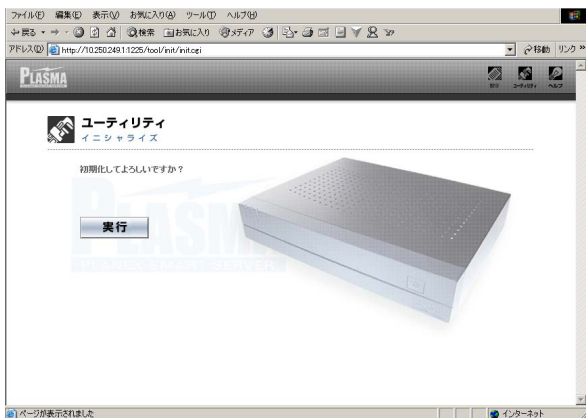
このボタンを押すと確認画面が表示されます。

「実行」

このボタンを押すと初期化を開始します。

初期化後に自動で再起動されます。

注意 初期化中は電源切らないでください。故障の原因になります。



4.Windowsクライアントのセットアップ

1. 概要

本製品のクライアントとして利用可能なWindowsは以下の通りです。

- Windows 95 osr2以降/98/Me/NT3.51/NT4.0/2000

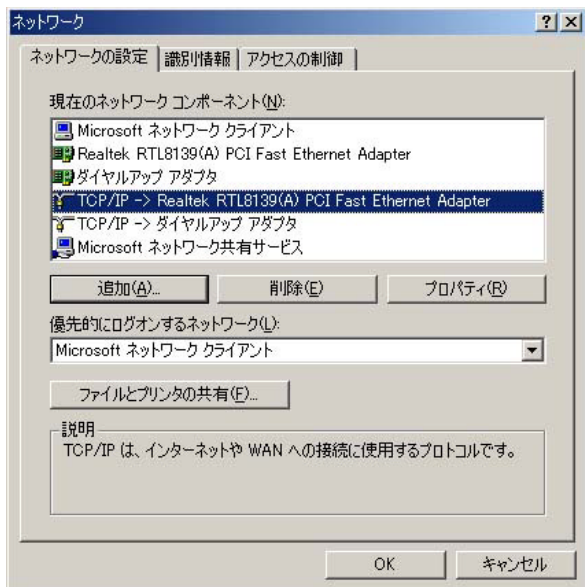
クライアント上では、以下の各項目を選択ないし設定する必要があります。

- TCP/IPプロトコル
- ネットワークログオン
- 本製品搭載ディスクへのマッピング
- インターネット接続の設定

本章で使用する画面例は、Windows 98用となっています。他のWindows でも同様の画面が表示されますが、内容が若干異なる場合があります。

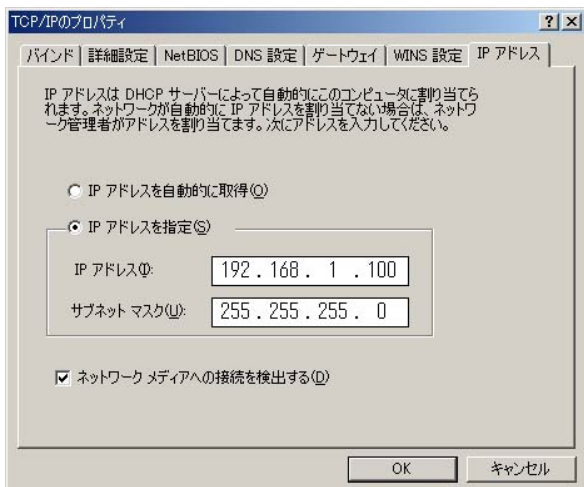
2. TCP/IPの設定

1. スタートメニューから「設定」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」と選択します。以下の画面が表示されます。



2. 上の画面で選択されている「TCP/IP → (ご使用ネットワークカード)」の部分を実際に表示されない場合は、TCP/IP プロトコルをインストールする必要があります。「追加」ボタンを押し、「プロトコル」→「Microsoft」→「TCP/IP」→「OK」の順に選択して TCP/IP プロトコルをインストールしてください。

3. TCP/IPエントリが反転表示(選択表示)されたしたら、「プロパティ」ボタンをクリックしてください。以下のように、「IPアドレス」タブの内容が表示されます。



■ DHCPクライアントとして使用する場合

1. 上の画面例のように「IP アドレスを自動的に取得」を選択します。
本製品内蔵のDHCP サーバが有効となっている場合は、クライアントPCが起動した時点で自動的にこのDHCPサーバからIPアドレスおよびその関連情報が提供されます。
2. クライアントPC を再起動してください。(DHCPは、ご使用PCの起動時のみ機能するようになっていきます。)

■「IPアドレスを指定」を選択した場合（IPアドレス固定）

本製品上でインターネット接続を共有しない場合は、特に設定を変更する必要はありません。

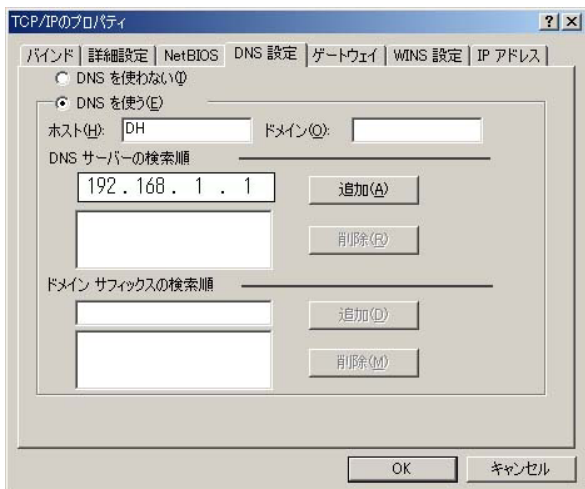
本製品上でインターネット接続を共有する場合は、以下の手順でデフォルトゲートウェイアドレスを本製品のIPアドレスに指定する必要があります。

1. 上記の手順でTCP/IPのプロパティ画面を表示します。
2. 「ゲートウェイ」タブを選択します。
3. 「新しいゲートウェイ」フィールドに本製品のIPアドレスを入力し、「追加」ボタンをクリックします。
4. 「OK」をクリックします。これで設定が保存されます。



本機のDNSリレー機能を利用する場合は本機のアドレスをDNSサーバとして設定する必要があります。

1. 上記の手順でTCP/IPのプロパティ画面を表示します。
2. 「DNS設定」タブを選択します。
3. 「ホスト名」フィールドに適当な文字列を英数字で入力します。
4. 「DNSサーバーの検索順」にPlasmaのIPアドレスを入力して「追加」ボタンをクリックします。
5. 「OK」をクリックします。これで設定が保存されます。
6. コンピュータを再起動してください。

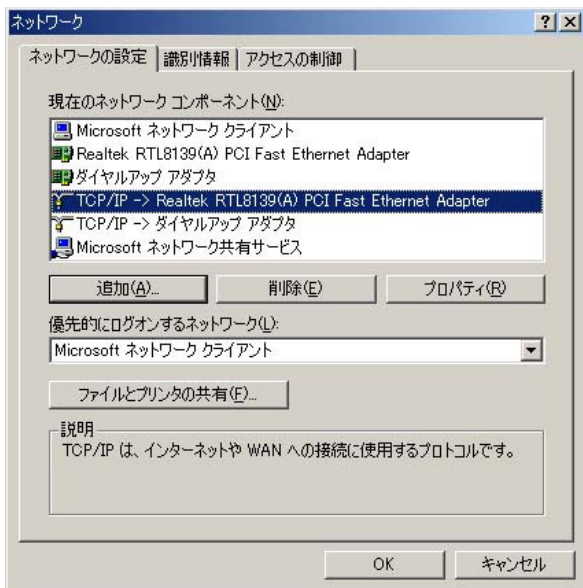


3. ネットワークログイン

本製品と接続するためには、ネットワークに正しくログオンする必要があります。

1. 以下の手順で、現在ご使用のWindows ログオン設定を確認します。

Windows のスタートボタンから「設定」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」とクリックしてください。以下のように、「優先的にログオンするネットワーク」が「Microsoft ネットワーク クライアント」に設定されていることをご確認ください。



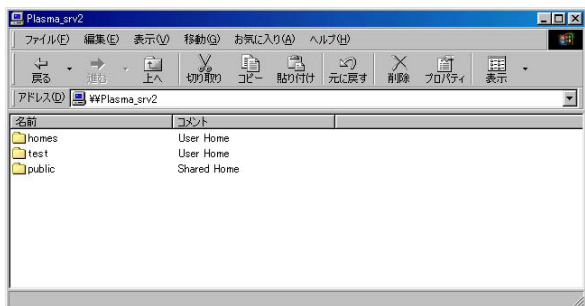
注意 既にこのように設定されている場合は、特に設定を行う必要はありません。

- 2.Windows起動時は、ネットワークにログオンするためのプロンプトが表示されます。この時点で必ずログオンしてください。ESCキーを押すか、「キャンセル」をクリックするとネットワークに接続できなくなってしまいます。ログオンするためには、有効なユーザ名およびパスワードが必要となります。
- Windows OSを搭載したパソコンで本製品のファイル共有をご使用になる場合はWindowsログオン時に指定しているユーザー名と同じユーザーを設定画面より作っておく必要があります。

4.本製品上のディスク領域を使用する

本製品上のストレージ(ディスク)を利用するには、アクセスを希望する本製品上のフォルダに対し、ドライブ番号をマッピングする(割り当てる)必要があります。マッピングがいったん完了すると、そのフォルダを今後Windows 上のどのプログラムからもアクセスできるようになります。以下の手順でマッピングを行ってください。

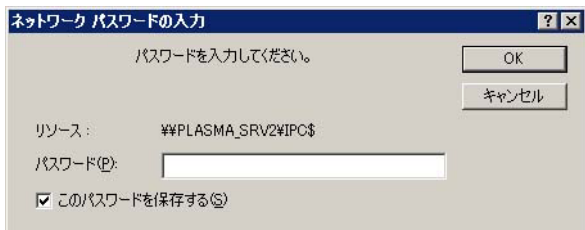
1. デスクトップ上の「ネットワークコンピュータ」アイコンをダブルクリック(またはクリック)します。
2. メニューバーから「表示」→「詳細」と選択します。これで「コメント」欄が表示されます。
3. 画面の中で本製品用のアイコンを探してください。以本製品が表示されない場合は、「ネットワーク全体」アイコンをダブルクリック(またはクリック)し、さらに本製品が所属しているワークグループをダブルクリック(またはクリック)してください。初期設定では、本製品は「Workgroup」というワークグループに所属しています。



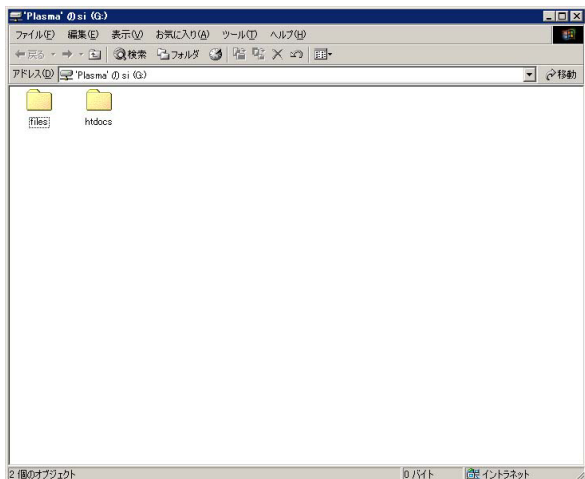
4. 本製品のアイコンをダブルクリック(またはクリック)します。



5. アクセスを希望するフォルダ(ディレクトリ)上でマウスの右ボタンをクリックし、「ネットワークドライブの割り当て」を選択します。

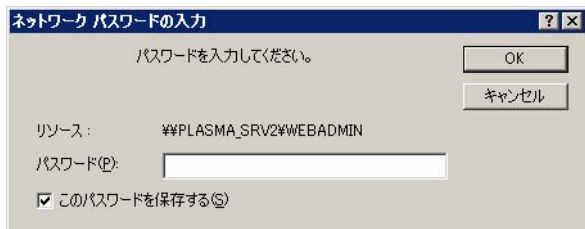


6. このフォルダ用としてドライブ番号を何か選択し、さらに「ログオン時に再接続」ボックスにチェックマークを入れます。なお、この設定を行わないとコンピュータをシャットダウンした時点で割り当て情報も失われてしまいますのでご注意ください。「OK」をクリックします。
7. これで、本製品上のフォルダはWindowsエクスプローラから自由に参照できるようになりました。また一般のWindowsアプリケーション上で「ファイルを開く」または「名前を付けて保存」を選択した際も、このフォルダ(ドライブ)を選択することができます。



注意 本製品上のフォルダにアクセスすると、以下のようにパスワードを要求される場合があります。

同じユーザ名をWindows ログオン時および本製品上で使用しており、かつ違うパスワードをそれぞれ設定している場合は、上記の画面で本製品用のパスワードを入力してください。



• Windowsエクスプローラまたは他のファイル管理ソフト上で本製品を参照すると、以下のAppleTalk クライアント用ファイルが表示される場合があります。

- Apple Desktop
- Apple Double
- Network Trash Folder

これらのファイルは絶対に削除しないでください。

5. 本製品からインターネットに接続する

インターネットへの共有接続を利用するコンピュータは、それぞれ以下の設定を行う必要があります。

- ゲートウェイIP アドレス(TCP/IP)
- インターネットの接続方法

■ ゲートウェイIPアドレス(TCP/IP)

DHCPを使用する場合は特に設定を変更する必要はありません。ただしDHCPを使用しない場合は、本章の「2.TCP/IPの設定」にあるTCP/IPの設定手順に従って、ゲートウェイIP アドレスを本製品のIPアドレスに設定してください。

■ インターネットの接続方法

1. スタートメニューから「設定」→「コントロールパネル」→「インターネットオプション」と選びます。
2. 「接続」タブを選び、「接続」ボタンをクリックします。
3. 「インターネット接続を手動で設定するか、ローカルエリアネットワーク(LAN)を使用して接続します」を選んで「次へ」ボタンをクリックします。
4. 「ローカルエリアネットワーク(LAN)を使用してインターネットに接続します」を選んで「次へ」ボタンをクリックします。
5. 「ローカルエリアネットワークのインターネット構成」画面が表示されます。画面内のどのチェックボックスにもチェックマークが入っていないことをご確認の上、「次へ」ボタンをクリックしてください。
6. 画面の指示に従ってウィザードを進めます。設定が完了しましたら、最後に「完了」ボタンをクリックしてください。

■インターネットへの接続

本製品と各クライアントPCの設定がいったん完了すると、インターネットへの接続は自動的に行われます。WEBブラウザ、FTPクライアント、Eメールプログラムなどのアプリケーションをすべてそのままご使用いただけます。

5. Macintoshクライアントのセットアップ

1. 概要

本製品をご使用いただくには、以下の環境および設定が必要となります。

- Mac OS 7.5以降およびAppleShare
- 本製品の管理者側で、各Macユーザ用のユーザアカウントを作成する必要があります。

本章で選択または設定する項目は以下のとおりです。

- TCP/IPプロトコル
- 本製品内蔵ディスク(ストレージ)へのアクセス
- ネットワークプリンタの設定(本製品に接続されたプリンタを使用する場合)
- インターネット接続の設定

2.TCP/IP

通常は、何も設定を変更する必要はありません。

ただし以前に固定IPアドレスを設定しており、これから本製品のDHCPサーバ機能を使用される場合は、ご使用MacintoshがDHCPクライアントとして利用できるようにTCP/IP 設定を変更する必要があります。この場合は以下の手順で設定を行ってください。

■ Macintosh をDHCP クライアントに設定する

1. アップルメニューから「コントロールパネル」→「TCP/IP」と選択します。
2. さらに「イーサネット」→「設定」→「DHCP」と選択します。

3.本製品内蔵ディスクにアクセスする

- 1.アップルメニューから「セクタ」を選びます。
- 2.「AppleShare」アイコンをクリックします。
- 3.本製品はすべてのゾーンからアクセスできるようになっています。
- 4.「ファイルサーバ」の選択リストから本製品を選択してOK ボタンをクリックします。
- 5.ログインダイアログが表示されますので、ユーザ名およびパスワードを入力します。あらかじめ本製品上で登録されているユーザ名とパスワードを正しく入力してください。入力内容が間違っているとアクセスすることができません。本製品の管理者が利用者のユーザ名をまだ作成していない場合は、「ゲスト」ボタンをクリックしてください。
- 6.本製品上で利用可能なフォルダである「共有」の一覧が表示されます。アクセスを希望される共有のチェックボックスにチェックマークを入れてください。なお、アクセス権限のない共有を選択するとエラーメッセージが表示されます。
- 7.OKをクリックすると操作が完了します。この時点で、選択された共有のアイコンがご使用デスクトップに表示されます。
デスクトップ上の共有は、他のフォルダとまったく同じようにご使用いただけます。

4.本製品からインターネットに接続する

■インターネット接続の設定

DHCPを使い、本製品経由でご使用のMacintoshからインターネットに接続する場合は以下の設定を行ってください。

- 1.TCP/IPコントロールパネルを開きます。
- 2.「接続元」メニューから「イーサネット」を選びます。
- 3.「設定方法」メニューから「DHCPサーバを使用」を選びます。
「DHCPクライアントID フィールドは空欄のままでかまいません。
- 4.「TCP/IP」パネルを閉じてください。これで設定が保存されます。

注意 DHCPの代わりに手動設定されたIPをご使用の場合は、「ルータアドレス」を本製品のIPアドレスに変更してください。他に必要な設定作業はありません。

付録A.トラブルシューティング

1.Windows編

■現象1：

本製品の設定完了後、「ネットワークコンピュータ」上で本製品を見つけることができない

対策：

「スタート」ボタンから「検索」→「ほかのコンピュータ」と選択し、本製品の名前を入力してください。

これで本製品が見つからない場合は、「コントロールパネル」から「ネットワーク」アイコンを選んで以下の点をご確認ください。

●TCP/IPプロトコルがインストールされているかどうか

インストールが済んでいない場合は、「追加」ボタンをクリックし、「プロトコル」→「Microsoft」→「TCP/IP」と選んでインストールを行ってください。

●ネットワークのバインド設定を確認してください

TCP/IPプロトコルがご使用のネットワークアダプタ(NIC)にバインドされていることをお確かめください。ご使用ネットワークカードを選択し、「プロパティ」をクリックした状態で「バインド」タブを選択します。TCP/IPがバインド(チェック)されていない場合は、この時点でチェックマークを入れてください。次に「TCP/IP → ...」で始まるご使用ネットワークカード用のTCP/IPエントリを選択し、「プロパティ」をクリックした上で「バインド」タブをクリックします。「マイクロソフトネットワー

クライアント」がバインド(チェック)されていない場合は、この時点でチェックマークを入れてください。

- ・ルータを使用していない場合は、ご使用コンピュータのIP アドレスが本製品のアドレスと互換性があるかどうかご確認ください。具体的には、ご使用PC のアドレスが192.168.1.2 ~ 192.168.1.254 の範囲内で設定されているかどうか、またサブネットマスクも255.255.255.0 に設定されているかどうかをお確かめください。
- ・ルータをご使用の場合は、PC上でゲートウェイIPアドレスが正しく設定されていることをお確かめください。ご使用LANの管理者とご相談の上、正しいゲートウェイIPアドレスを入力してください。

■現象2：

「ネットワークコンピュータ」上で本製品をクリックするとパスワードを要求される

対策：

以下の状況が発生していることが考えられます。

- PC上で使用したログオン名は本製品で認識できたが、パスワードは認識されなかった
本製品用のパスワードをそのまま入力するか、Windowsパスワードを本製品用のパスワードと同じに設定してください。
- PC上で使用したログオン名が本製品で認識されず、guestユーザとしてログオンされた
本製品の管理者側で、新規にユーザ名を作成してください。(ご使用PCと同じユーザ名をご使用ください。)

- アクセスしようとした共有に対するアクセス権限がない
共有へのアクセス権限を与えるよう、本製品の管理者に依頼してください。

注意 Windowsでは、コンピュータ名をデフォルトのログオン名として使用しています。(この情報はコンピュータ名は「コントロールパネル」→「ネットワーク」→「識別情報」で確認できます。)しかし、ログオンプロンプトで新しいユーザ名とパスワードを入力するだけで新規にWindows ログオン名を作成することが可能となっています。

2. Macintosh編

■ 現象1：

本製品と接続できないため設定が行えない

対策：以下の点をご確認ください。

- 本製品の設定が正しく行われているかどうか
- LAN内の各接続が正しく行われているか
- 本製品の電源が入っているか
- ご使用LAN 上でルータをご使用の場合は、ご使用のMacintoshと本製品が同じネットワークセグメント内に設置されていることをご確認ください。
- ご使用LAN内のPC またはネットワーク機器に本製品のデフォルトIPアドレス192.168.1.1が既に設定されている場合は、いったんそのPCないしネットワーク機器の電源を切って本製品に新しいIPアドレスを割り当ててください。本製品のIPアドレス設定が終わるまで、この機器の電源は入れないでください。

- ご使用のMacintoshに設定されているIPアドレスが、192.168.1.2～192.168.1.254の範囲内のものであることをお確かめください。この範囲内のアドレスですと、本製品のIP アドレス192.168.1.1と互換があるため本製品と接続することができます。また、ご使用Macintoshのサブネットマスクも255.255.255.0になっていることをご確認ください。これらの設定は、アップルメニューから「コントロールパネル」→「TCP/IP」と選択することで確認することが可能です。

3.インターネット接続関連

■現象1：

クライアントコンピュータからインターネットに接続できない

対策：モデムをご確認ください。

- ケーブルまたは回線が正しく接続されていることをお確かめください。
- モデムの電源が入っていることをお確かめください。
- 本製品の設定をご確認ください。
- ・ 本製品の管理インターフェースに接続し、メインメニューから「INTERNET」を選択します。
- ・ 「Connection」タブ上で「詳細設定」アイコンをクリックし、設定内容が正しいことをお確かめください。確認が済みましたら「閉じる」をクリックしてください。（何か設定を変更している場合は「保存」をクリックしてください。）
- ・ もう一度「閉じる」ボタンをクリックします。メインメニューに戻りますので、「STATUS」を選択してください。

- ・ ログメッセージを参照して、何か異常が発生していないかご確認ください。ログメッセージの詳細についてはオンラインヘルプをご覧ください。
- ・ ご使用の接続方法によっては、「ダイヤル」または「接続」ボタンを押す必要があります。この場合は、これらのボタンを使用して正常に接続できるかどうかご確認ください。
- ・ 正しく接続できる場合は、クライアントPCの設定をお確かめください。接続が行われない場合は、WAN接続かその設定に問題がある可能性があります。
- ・ コンピュータの設定をお確かめください

TCP/IP

- ・ コンピュータ上でTCP/IPプロトコルが正常にインストールされていることをご確認ください。
- ・ TCP/IP設定の詳細については、Windows・Macintoshいずれかの「クライアント設定」の項をご覧ください。

インターネット接続

- ・ ダイヤルアップ接続でなく、LANでインターネットに接続するようコンピュータが設定されていることをご確認ください。

付録B. シリアルポートとの接続

シリアルポートにコンピュータを接続してPlasmaのパスワード初期化を行うことができます。

注意 シリアルポートから初期化を行うにはリバースタイプのシリアルコンソールケーブル (D-sub9ピン メス) をご購入ください。

plasma3000の電源差し込み口の下にある端子とコンピュータの端子をシリアルコンソールケーブルでつなぎハイパーターミナル等のソフトを起動して下さい。

コンピュータの通信条件は以下のように設定します。

- 9,600 ボー (デフォルト設定)
- 8 ビット (データビット)
- パリティなし
- 1 ストップビット
- フロー制御 ハードウェア

Windows 95 OSR2/98/Me 上でハイパーターミナルを使用する場合は、接続方法で「Com xへダイレクト」を選択しポートの設定をしてください。

接続後Enterキーを押すとコンソール画面が表示されます。

login: admin

Password: pciplasma

でログインするとInitializeを確認するメッセージが出力されます
ので初期化する場合は"y"を入力してEnterキーを押して下さい。

初期化を開始します

付録C. 製品仕様

< 準拠する規格 >

IEEE802.3 10BASE-T

IEEE802.3u 100BASE-TX

< ポート >

10BASE-T/100BASE-TX RJ-45 STPポート X 2

< ルーティング速度 >

30Mbps

< 入力電源 >

AC 100V

< 消費電力 >

最大 W

< 外形寸法 (W×D×H) >

290 × 225 × 53 mm

< 重量 (本体だけ) >

Kg

< 環境 >

動作温度 0 ~ 40 (結露しない事)

動作湿度 35 ~ 85%

< EMI >

FCC Class A、CE Mark